



福井大学大学院 工学研究科

博士前期課程

2023

新たな三カタが待っている

新たなミカタが 待っている

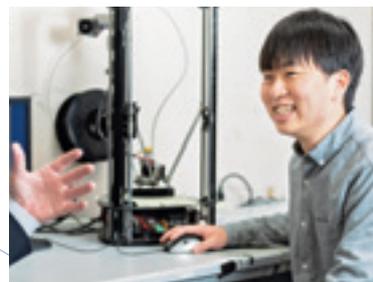
大学院で得られること。

それは、研究生活の過程で生まれる
「学生ならではの経験」です。

今までになかった出会いや体験は、
あなたの「ミカタ」となり、
あなたの力になります。

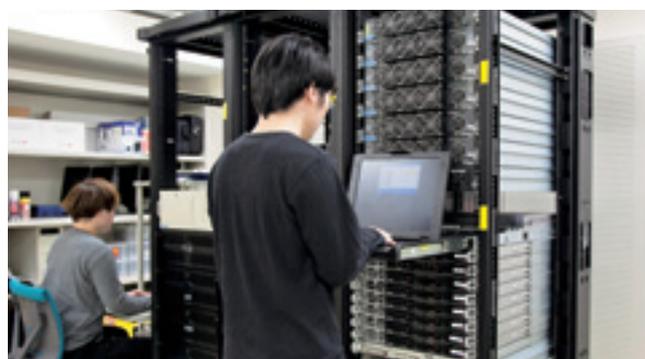
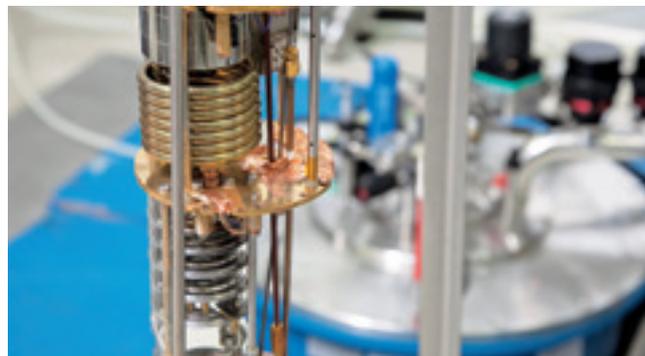
私たちと一緒に、

自分の可能性を確かめてみませんか。



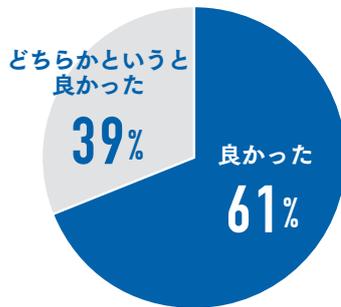
CONTENTS

- 04 大学院進学の特長
- 05 研究紹介
- 08 教育システム
- 10 学内外からの高評価
- 12 わたしの「ミカタ」
- 16 就職実績
- 18 学習支援制度
- 21 就職支援
- 22 入試情報・学生支援
- 23 専攻紹介
- 24 コース紹介
- 36 施設紹介



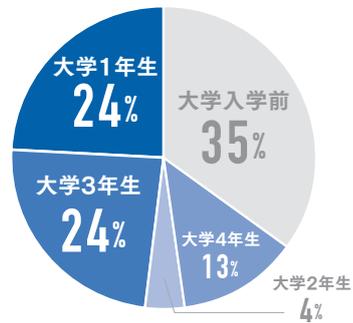
QUESTION.01

大学院へ進学して良かったですか？



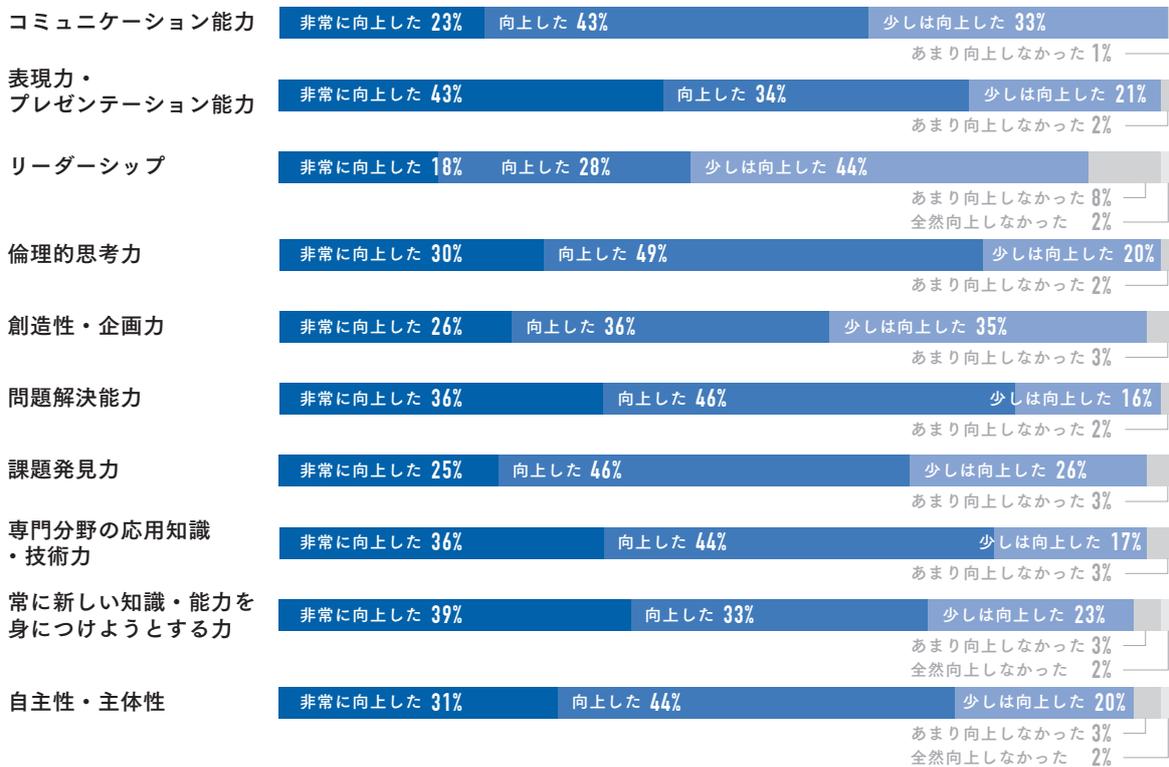
QUESTION.02

いつ、大学院進学を決めましたか？



QUESTION.03

学部在籍時に比べて向上した能力は？



QUESTION.04

大学に進学して良かった点は？

主体的に物事を
考えられるよう
になった

課題解決に向けた
幅広い知識を
応用する能力が付いた

学部生の頃よりも
深い内容に
触れることができた



カイコの紡糸メカニズムを
工業生産に応用させたい。

産業創成工学専攻 生物応用化学コース
博士前期課程1年(学年は取材時のもの)
友松 未織 さん



自然が作り出す材料の 形成メカニズムを解明

自然が作り出す物質には、形成のメカニズムが解明されていないものがあり、カイコが繭玉を作る際に口からはき出す絹糸もそのひとつです。カイコは体内にあるフィブロインというゲル状のたんぱく質を変化させ、口から絹糸としてはき出しますが、体内でどのように物質を糸状に変化させているのか、詳しくはわかりません。私はその紡糸のメカニズムを研究しており、カイコが紡ぐ絹糸の詳細な分子構造や集合体形成のメカニズムを解明することで、環境に優しい紡糸方法の開発につなげることを目標としています。糸を工業生産する工程では有機溶媒が使われたり、高温高压な環境が必要だったり、環境への負担が大きい場合があるので、その必要がないカイコの

紡糸方法を人工的に模倣できれば、環境に優しい糸を生産できます。卒業論文では、カイコの体内にある金属イオンがたんぱく質のフィブロインにどう影響するかを解明し、高い評価をいただきました。

多様な研究者たちと 切磋琢磨しながら成長できる

私はかつて蚕糸業で栄えた長野県上田市の出身です。子どもの頃からカイコが身近にあり、カイコや蜘蛛の糸を研究できる生体分子化学研究室に迷わず入りました。もともと興味があった分野なので、研究がとても楽しく、さらに知識を深めるために大学院へ進みました。生体分子化学研究室では、根本的な現象を解明す

る基礎研究に取り組んでいます。自分の興味があることをとことん追求できるので、製品開発など実用的なゴールに向かう応用研究とは、違った面白さを感じています。研究室のメンバーは私のように学部から進学した人もいれば、他大学や高専から来た人もおり、また、他の研究室と交流するチャンスもあるので、多様な人たちと切磋琢磨できる環境が刺激になっています。

私の研究開発のテーマは「環境に優しいものづくり」です。繊維や化学など、どの分野に進むかはまだ決めていませんが、大学院で身に付けた分析力や目標を達成する根気強さを生かし、将来は地球環境に貢献できる研究者になりたいです。

安全社会基盤工学専攻 建築土木環境工学コース
 博士前期課程1年(学年は取材時のもの)
 山本 優太 さん



コミュニティに入ることで見えてくる町へのニーズ

地方都市では低未利用地と言われる空き地や空き家、利用頻度が低い駐車場が増えており、福井市街も例外ではありません。私が所属する研究室ではそんな低未利用地の活用方法を探り、持続可能で創造的な町づくりにつなげる研究をしています。実際に地域住民の皆さんにアンケートを行ってみると、福井市街は空洞化が進みつつも、空き地を菜園利用して豊かに暮らしている人が多いことに気がきました。プロジェクトではそのニーズや実態を調査するため、福井市郊外でコミュニティ菜園を行い、学生と地域住民が情報交換しながら課題解決に取り組みました。町づくりにはどの地域にも当てはまる正解は存在しません。単純に都市型、郊外型の枠に当てはめるのではなく、

地域ごとに暮らしやすさのカタチを提案する都市計画が必要です。コミュニティ菜園では学生が地域に入り込むことで、住民の思いやニーズを深く知ることの大事さに気付かされ、地域とともに課題を解決できてこそ持続可能な町づくりができることを学びました。

「地域でどう幸せに暮らすか」を提案したい

学部生として取り組んだ都市計画の研究をもっと深めたいと考え、大学院へ進学しました。研究をしながら、将来進むべき道について考える時間が欲しかったというのも理由です。大学院での2年間で興味の分野が広がりましたし、何より

好奇心のおもむくままに研究に没頭できる時間は貴重だったと感じています。研究室ではプロジェクトやイベントを開催する機会が多かったため、周りの意見を聞きながら計画を実行していく実務的なスキルも身に付きました。

卒業後は地元の住宅会社へ就職し、顧客の目線に立った住宅提案をしたいと思っています。これからの住宅会社はハードとして建物を提案するだけでなく、地域でどう幸せに暮らしていけるかを含めて提案する時代です。そういった意味で、コミュニティに入りこんで都市計画を研究したプロジェクトでの経験は、きっと役立つと思っています。

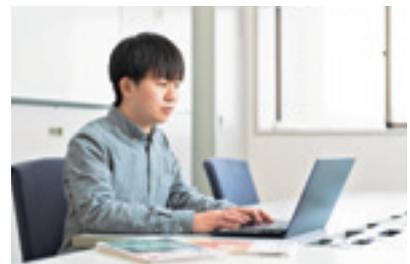
「正解」はひとつじゃない、だからこそ町づくりは面白い。





知能システムの技術で 医療の世界を変えていく。

知識社会基礎工学専攻 知能システム科学コース
博士前期課程2年(学年は取材時のもの)
中野 彰人 さん



医療機器メーカーと膝関節の 手術支援システムを共同研究

私は子どもの頃、身体があまり強くありませんでした。何度か外科手術を経験しましたが、医療機器の進歩により身体への負担が小さくて済み、その経験から「自分も工学で医療を支援したい」と思うようになりました。学部時代から医療工学系の計算機支援診断研究室へ入り、大学院に進んでからは全人工膝関節置換術の支援システムを開発する研究をしています。全人工膝関節置換術とはリウマチなどの病気によって変形した膝関節をインプラント(人工関節)に置き換える手術ですが、膝には左右があり、サイズもさまざまなため、取り違えることなく正確に置換しなければなりません。私の研究では、カメラでインプラントの種類やサイズを自動認識できるようにし、サイズ違

いといった医療ミスを防ぐことを目的としています。医療機器メーカーとの共同研究のため、メーカーの担当者から手術のデモンストレーションを見学させてもらい、研究へ生かしました。医工が連携した研究開発では、分野を越えて専門家が意見交換し、システムを開発する難しさや面白さを体験できました。

専門家になりすぎず、 幅広くスキルを磨ける面白さ

学部生だった時は座学が中心でしたが、大学院では研究が学びのメインになります。私が所属する研究室は、専門以外でも必要があれば自分たちでなんでも製作するスタイルで、例えば、3D CAD

でカメラを固定するパーツを作ったり、ハードウェアの回路を設計したりしたこともありました。目的を実現するために必要な情報を信頼できるソースから探索するスキルも身に付いたと思います。専門だけにこだわらず幅広いスキルを磨けたことは大きな収穫です。大学院で、さまざまな経験を積んだことで自分が何をすべきかを考えるようになり、技術者として進むべき方向が明確になりました。卒業後は医療機器メーカーで開発をします。まずは技術者としてさらにスキルアップし、将来は患者さんや医療従事者の負担を減らせるような機器やシステムを開発していきたいです。

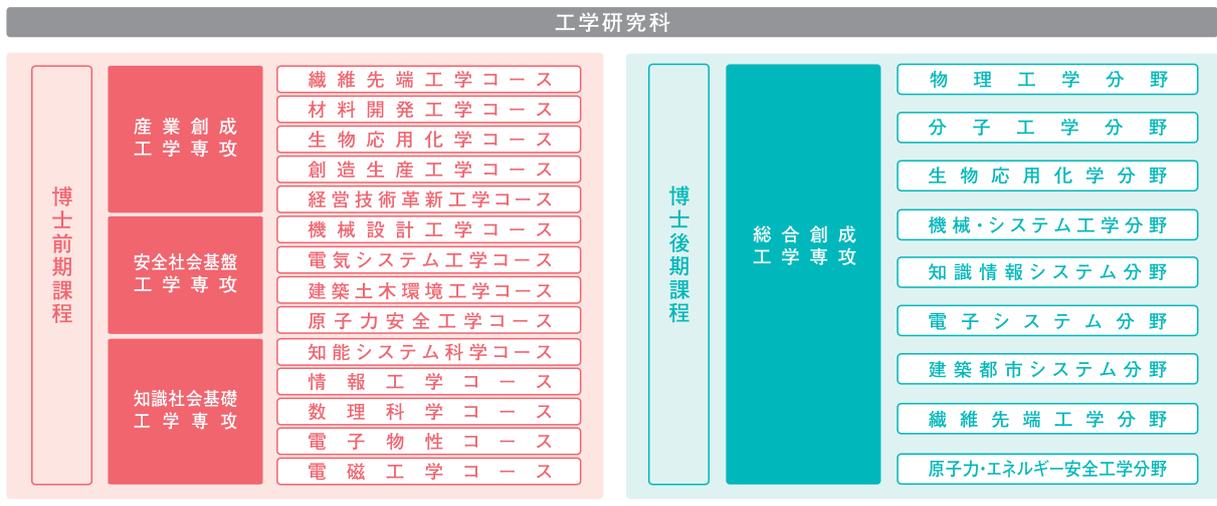
意欲を「確かな自信」に変える 教育システム

夢を世界でかたちにする技術者、GLOBAL IMAGINEERをめざして

IMAGINEER は Imagine(こころに描く)と Engineerからなる造語で、私たちが教育・研究・社会貢献を行う際の拠り所としている言葉です。福井大学工学部・工学研究科には工学のほぼ全領域にわたる多彩な人材が集まり、学生と教職員が一体となって個性と志に

磨きをかけています。工学研究科博士前期課程は、改組前は10専攻体制でしたが、2020年度には3専攻14コース体制に改組されました。特色ある共同教育研究施設と連携しながら、ユニークな教育研究プログラムを用意し、学生の意欲を「確かな自

信」に変えるサポートをしています。博士後期課程の総合創成工学専攻では、専門は9分野に分かれて、最先端の科学技術研究を通じて持続可能な社会の実現に貢献しています。



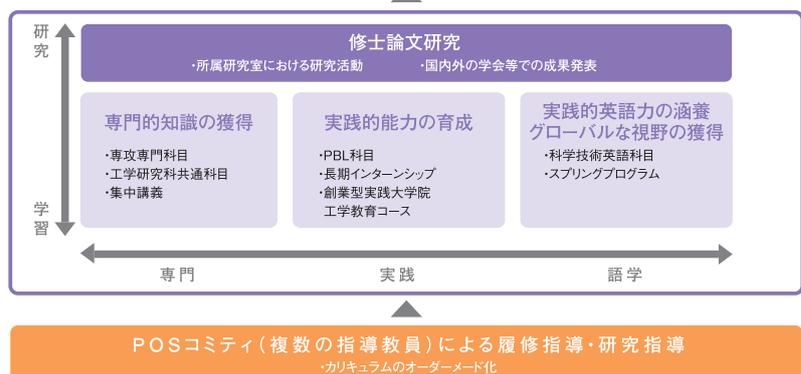
最高の評価を受けた 先進的な教育システム

皆さんが「博士前期課程＝修士論文研究の場」というイメージを持っているとすれば、それは正確ではありません。修士の学位は、修士論文研究の遂行に加え、体系的なカリキュラムに基づいた大学院教育を受けることにより授与されるものなのです。改組後の工学研究科博士前期課程では、「将来の産業構造の変革に対応できるスペシャリストとしての専門の深い知識の修得」と「分野の多様性を理解し異分野との融合・学際領域の推進も見据えることができるジェネラリストとしての幅広い知識・視野の修得」を教育の2大柱に据えています。このため、産業分野を「ものづくり」「社会インフラ」「情報社会基盤」の3グループに括り、各グループに対応する分野横断型の専攻を3つ設けました。専門を深掘りするスペシャリストと分野横断型のジェネラリストの育成のため、いずれの柱にも多くの科目を擁していますが、それらを無計画に履修しても効果は上がりません。専門知識と幅広い知識・俯瞰的視野をバランスよく

身に付けるためには各自の研究テーマも考慮した上で、どのような科目をどの時期に履修するか、ということをよく練っておく必要があります。工学研究科博士前期課程では、計画的・体系的な履修を学生と教員が一緒になって考える「カリキュラムのオーダーメイド化」を実施しています。これは、入学直後に各学生に対してPOSコミティと呼ばれる指導教員集団(最低3名)が組織され、学生とPOSコミティが面談を重ねながら2年間の履修プランを練り上げていく、というもので

す。これは大変に手間のかかるシステムであり、その実施は恐らく日本では初めてのことです。他大学の注目度も高く、日本学術振興会による審査を受け、4段階評価の中で最上位の評価を得ました。このように、工学研究科は先進的な教育システムを実践しており、その実績は高く評価されています。なお、修士論文研究については、工学研究科の研究指導計画に基づき、皆さんが自主的に修士論文研究を遂行できるようPOSコミティが2年間研究指導を行います。

グローバル化社会で活躍できる高度専門技術者＝Global Imagineer



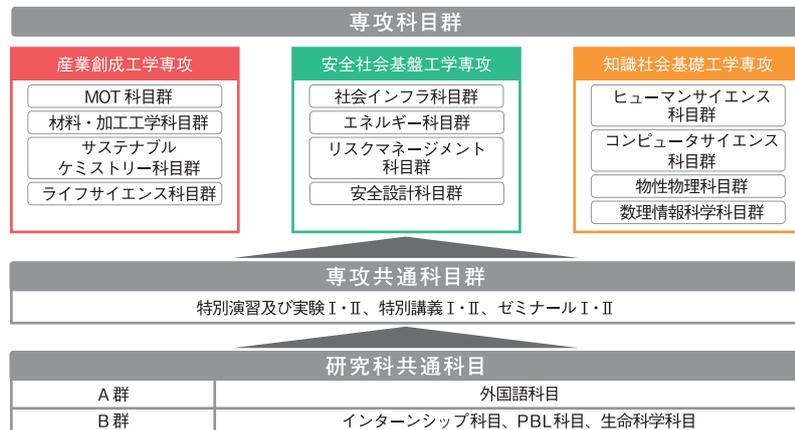
～学生一人ひとりにとって最高の大学院教育を目指して～

ここには夢をカタチにする技術者を育む、ユニークで確かなシステムがあります。
そんな福井大学大学院工学研究科ならではの“Imagineering Factory”をご紹介します。

ユニークな 学習プログラム

工学研究科博士前期課程の大きな特色は、前ページで述べた通り、スペシャリストとジェネラリストの両方の知識・能力を併せ持つ人材を育成することにあります。このため、右図のようなユニークなプログラムが構築されています。全ての学生は、所属する専攻内で前ページに示されるコース(=スペシャリストとしての深い専門知識を得るための履修区分)を自らの目的に応じて選択します。ジェネラリスト育成のために、各専攻には右図に示す4つの科目群が設けられています。これら各科目群は、複数のコースを横断した科目で構成されており、学生は各専攻の4つの科目群から最低1科目は履修し、分野横断的な知識を修得します。専攻をまたいで他専攻の科目を履修することももちろん可能です。一方、スペシャリスト育成のために、各コースが指定した2つの重点科目から集中して科目を履修し専門性を高めます。その他に工学研究科共通科目と各専攻共通科目を履修しながら、POSコミティの研究指導のもとで修士論文研究を遂行します。修論研究遂行には、ジェネラリスト・スペシャリスト両方の知識や視点が必要です。

POSコミティによるカリキュラムのオーダーメイド化は教育の「枠組み」ですが、その「中身」も大変特徴的です。まずPBL(Project Based Learning)科目が挙げられます。これは、設定されたテーマに学生が自主的に取り組むことを通し、創造力、自己学習力、問題発見・解決能力、およびコミュニケーション能力などの実践力を身に付ける科目です。「専門性を高めるスペシャリスト育成型」「異分野融合・学際性を高めるジェネラリスト育成型」「地域や産業界等との連携型」などのタイプがあり、参加した学生からは「多くの問題に直面する一方、問題解決のために自分自身で考え行動したことは講義のみでは得ることができない貴重な経験であった」といった声が多く寄せられています。また、企業における2ヶ月程度の体験学習を通して産業現場での取り組みを理解し実践的能力を育む科目として「長期インターンシップ」があります。企業に派遣する前



フィールドワーク・地域貢献型

大野市六間通りの空間デザイン



実践基礎技術習得型

組み込みプロセッサを用いたFPGAベースの組み込みシステム設計



外部人材・機関活用型

原子力施設における原子力材料研究実習



展示会・競技会参加型

ロボカップ・サッカーロボット開発チャレンジプロジェクト



後には大学内での学習があり、しっかりしたサポートのもとで派遣するため安心して参加できます。学生からは「仕事に対するの取り組み方や考え方、またこれからの人生に必要なことなどを学べた。進路選択をする上で大変貴重な経験になった」といった声が寄せられています。学生を対象とした「ビジネスプランコンテスト」も毎年実施しています。また、海外留学の促進と国際性溢れる大学院生の育成等を目的とした「スプリングプログラム」では、春期休業期間を利用して中国の学術協定校に短期留学します。このように、Imagineerに必要な実践力を育む仕掛けを数多く用意しています。もちろん、専門知識を学ぶ科目も充実しています。これらをどのように組み合わせるかは戸惑うかもしれませんが、ご心配なく。カリキュラムのオーダーメイド化がその

お手伝いをします。工学の専門知識を社会で応用するためには技術経営に関する知識が欠かせません。改組により産業創成工学専攻には経営技術革新工学コースが新設されましたが、他専攻・他コースの学生のために、産学官連携本部との協力のもと、副専攻として「創業型実践大学院工学教育コース」を設けています。本コースは、「起業家精神を備え、ビジネス感覚や実践的スキルを有する視野の広い人材の育成」を目的としており、どの専攻の学生も学ぶことができます。知的財産、マーケティング、マネジメントなどの講義と、ビジネスプラン作成や試作・試販売などの実習からなる体系的な「技術経営カリキュラム」が、企業経営者など学外講師の協力も得て開講されており、一定の要件を満たした学生には、学長名で「技術経営カリキュラム終了証」が発行されます。

専門性を深め、実践力を高める大学院教育

博士前期課程では、コースワーク(授業)を受けるとともに、専門分野の課題に長期的に取り組みます。学会発表などを経験することで、プレゼンテーション能力や、問題発見・解決能力などが大きく向上します。コースワークも専門性と実践力の両方を鍛える構成となっています。専門性を深め、実践力を高める大学院教育は、各方面から高く評価されています。

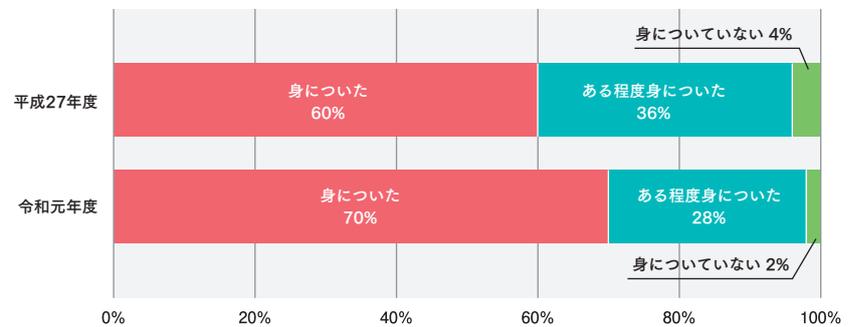
大学院学生による評価

平成27年度と令和元年度に実施した「福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査」において、大学院で学んだ学生の多くが専門知識・技術と実践的能力のいずれについても修得できたと回答しています。令和元年度の方が肯定的回答の割合が高いことは、教育の質が向上していることの証です。

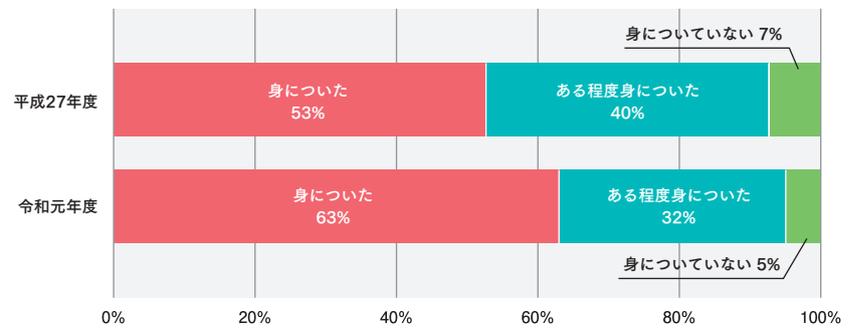
右の質問項目以外に対する回答結果(令和元年度の調査で「[ある程度～十分]身についた」と回答した割合)

新しいアイデアや発送を生み出す力	90.5%
文章作成や文章表現の力	93.1%
情報を適切に利用する力	95.8%
広い視野で物事を多面的に考える力	94.4%
プレゼンテーションをする力	95.6%

Q. 専門知識や技術が身につきましたか？



Q. 実践的な能力が身につきましたか？

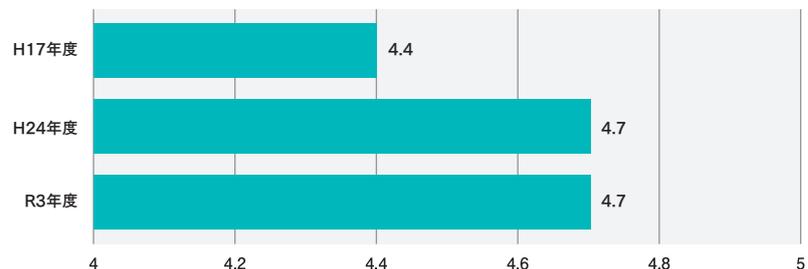


調査対象:平成28年3月と令和2年3月に修了した大学院生

外部の有識者による評価

工学部・工学研究科では約7年ごとに外部の有識者(企業関係者、大学関係者など)による外部評価を受けています。教育内容・方法改善への取り組みについて、高い評価を得ています。

Q. 教育内容・方法改善への取り組みは適切ですか？



工学部と工学研究科を合わせ5点満点で評価(工学部及び工学研究科の教育に関する自己点検および自己評価の適切さの評価点の平均値)

海外派遣による学生の成長

国際会議における口頭発表などのために大学院生が海外派遣されることは珍しくありません。優秀な発表により表彰される学生も毎年います。



第49回国機械学会配管と圧力容器強度に関する国際会議において第23回Rudy Scavuzzo杯争奪学生セッションの学士・修士部門第1位となった森紘亮さん(原子力・エネルギー安全工学専攻)



台湾で開催された2017 International Symposium on Optomechtronic Technologyにおいて、73件の発表中トップの評価を得て、Best Paper Awardが授与された坂野琢弥さん(知能システム工学専攻)。

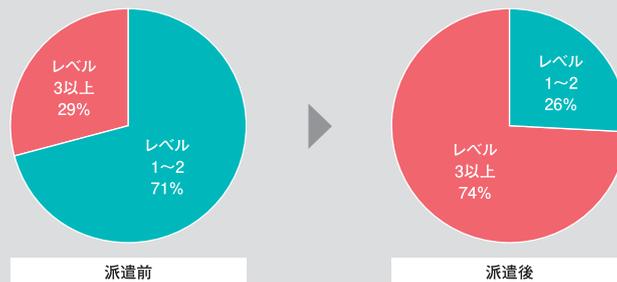
海外派遣により、コミュニケーション能力などの汎用的技能も大きく向上します。平成27年度に海外派遣された工学研究科の学生のコンピテシー(能力)の変化を、「福井大学グローバル・コンピテシー・モデル」により自己評価した結果、海外派遣による各種コンピテシーの大幅な向上が明らかになりました。なお、海外派遣日本人学生数は平成30年度に74名となり、平成27年度の約1.9倍に増加しています。COVID-19の影響を受けた令和2年度も、65名と高い水準を維持しています。

※「福井大学グローバル・コンピテシー・モデル」では、「自己学習力・問題解決能力」、「コミュニケーション能力(語学力含む)」、「専門知識・能力」など7つの能力等を、ループリック方式によりレベル1～5の5段階で自己評価します(レベル5が最高)。「自己学習力・問題解決能力」の場合、レベル2と3は以下のように設定されています。

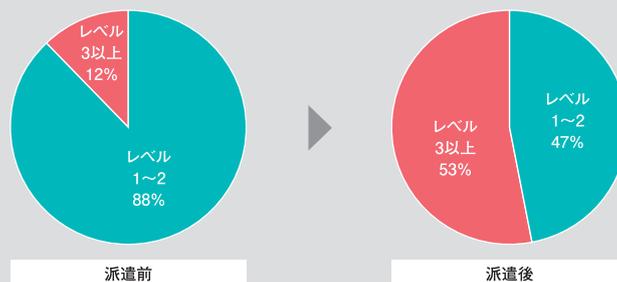
レベル2:現状を分析し、目的や課題を明確にして課題解決のための具体的な目標、計画を立てることができる。

レベル3:課題解決に向けた目標、計画のもと、周囲の人にも働きかけて協力を得ながら確実に行動を起こすことができる。

自己学習力・問題解決能力に関する自己評価



コミュニケーション能力に関する自己評価



大学改革支援・学位授与機構による評価

工学研究科は、平成28年度～令和元年度(第3期中期目標期間)の教育に関して、大学院生の積極的な海外派遣、実践力を育むPBL科目の実施、地元施設を活用した原子力人材の育成など、特色ある教育プログラムの実施により、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構より高い評価を得ました。

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による全体の評価結果は、以下からご覧になれます。

http://www.niad.ac.jp/n_hyouka/kokuritsu/kekka_h28/

教育活動の状況

高い質にある

※上位33%以内

※調査対象の1,456組織(全国の国立大学法人等の学部・研究科等)の中での評価



大学院だから出会えた

わたしの「ミカタ」

大学院を修了し、社会で活躍されている先輩方に、
当時の研究生活で得られた「味方」、身についた「見方」を伺いました。

自分の成長につながる「ミカタ」は、
思いがけない所にあるのかもしれません。



01
わたしの
ミカタ



研究とプライベートの
両立の大切さ

私が所属していた研究室は研究とプライベートを大切にしてくださる研究室でした。自分で研究する時間を決めることができるため、研究を頑張るときは一日中研究ができ、プライベートを優先したいときは、研究室の仲間や先生と思いきり遊ぶことが出来ました。プライベートが充実すると研究室に笑顔があふれ、雰囲気が良くなることで意見交換をお互いにしやすくなり、研究を行いやすい環境が自然とできていました。研究室生活から仕事を頑張るだけでなくプライベートを充実させることも仕事を円滑に進めるために重要なことだと気づくことができました。先生のおかげで社会人生活の中でも大切なことを学ぶことができ、感謝しております。

株式会社アイシン・デジタルエンジニアリング
デジタル技術部 第2グループ 勤務(勤務先は取材時のもの)
山下 雄也さん(機械工学専攻 2018年修了)

02

わたしの
ミカタ

壁にぶつかったときに
一人で悩まず、周りから
ヒントを得ることが大切



大学院で所属していた研究室では、同期でも異なるテーマを研究していたので、直接一緒に作業するということはありませんでした。そのため、壁にぶつかったときに一人で悩んだかというところではありません。

研究室のメンバーはそれぞれで専門性を高め、自身で研究に取り組んでいました。テーマが違って研究を通じて得たそれぞれの経験・知識・ツールは、自分の研究の参考にすることが可能で、研究を一步進めることができたのはよく覚えています。社会人になったときに周りからヒントを得ようとする姿勢は身につけておいて損はないと思います。

株式会社明電舎

研究開発本部 コアテクノロジー開発部

ハードウェア開発課 勤務(勤務先は取材時のもの)

浅井 郁帆さん(電気電子工学専攻 2020年修了)

03

わたしの
ミカタ

進化し続ける分野でも
重要なもの



進化し続けている分野で特に重要なのは、コミュニケーション力です。週一回のゼミとミーティングでは、直面した問題点やそれに対してどのように解決したかなどを、先生や同じ研究室の仲間に理解してもらうように「伝える」ことが必要でした。また、研究室の仲間が何に悩んでいるのかを「聞き出す」こともありました。コミュニケーションを通じて情報共有していき、仲間と共に成長することが特に重要だと実感しました。また、就職活動や会社でも同様にコミュニケーションは必要不可欠です。少しでも成長できるように、間違いを恐れずに色々なことに挑戦してください。

三谷商事株式会社

情報システム事業部 システム部 勤務(勤務先は取材時のもの)

久保田 龍一郎さん(情報・メディア工学専攻 2021年修了)

04

わたしの
ミカタ

研究室の先生、
仲間との話し合いの中で
身に着けた「論理的な思考」



大学院での研究を進めていくにあたり必要となったのは、論理的思考でした。得られた解析結果から考察し、より良い精度に落とし込んでいくには、論理的な思考が求められました。研究室の先生や先輩、時には同期とも相談しながら研究を進めていくことで、自分一人では行き詰ってしまったであろうことも順序立てて解決していくことができました。このように、日々研究室の仲間と話し合いながら研究を進めていくことで、私自身の論理的思考が身に付いていったと感じます。大学院での研究で培った論理的思考、論理的な見方は、就職活動の自己分析等でも活かすことができましたし、現在の業務でも大いに活用できていると感じています。

川田工業株式会社 勤務(勤務先は取材時のもの)

畑 千晴さん(建築建設工学専攻 2020年修了)

05

わたしの
ミカタ

仲間との会話からのヒントの存在、
手厚い指導から社会でも
必要となる力の習得



私は、研究生生活を通して、2つのミカタを得ることができました。

1つは「研究室の同期」です。研究室の同期はそれぞれ異なる研究をしていましたが、テーマや内容には近いものがありました。そのため、時には互いに相談しながら研究を進めたり、行き詰まった部分をそれぞれ共有したり、他愛もない会話がヒントとなることもありました。また、2つ目は、「先生の指導」です。先生からは、研究に関することはもちろん文章作成能力や論理的思考力など、社会でも必要となる能力など手厚い指導をしていただきました。これにより、目標に到達するためのプロセスの大切や違う視点からのアプローチの重要性を実感しました。実社会でもこの経験は、幅広い視野や考え方など役立っています。

日信化学工業株式会社 勤務(勤務先は取材時のもの)

上山 智大さん(材料開発工学専攻 2020年修了)

06

わたしの
ミカタ

我武者羅に研究するのではなく、
研究のその先を意識して取り組む



工学研究科に在籍していたこともあって、自分の研究がどういったものに应用できるのか、将来的にどのように役に立つのかを意識しなければいけないということを学びました。ただ我武者羅に研究をするのではなく、今自分が行っている研究はどのようなことに应用できるのか、応用するためにはどういった性質を調べる必要があるのかを常に考え、研究に取り組んでいました。この考え方は仕事上でも非常に重要です。自社製品に顧客や社会が求めている特性は一体何なのか、そのためにどういった特性を調べる必要があるのか、これを常に意識して仕事に取り組んでいます。基本的なことですが、重要なことであり、私の大事なミカタです。

日本電気硝子株式会社 勤務(勤務先は取材時のもの)

角間 真人さん(生物応用化学専攻 2019年修了)

07

わたしの
ミカタ

発表は自己満足で終わらせず、
相手に伝わらなければ
意味がない



研究室ではミーティングや学会などで資料を作る機会がありますが、私は発表で使う資料の作成が特に苦手でした。「人に伝える」ということを目的とした資料の作成は、相手にこちらの考えを的確に伝えることが重要だと思いますが、それを具体的に実行するのは非常に難しく感じました。しかし、先生からの助言や、日々のミーティングや学会で見る資料を参考に、少しずつですが資料を改善することができていったと思います。院に進学すると、資料を作成する機会がその分増え、単なる学問的な知識だけではなく、自分の考えを的確に表現する力も養えたことは非常にありがたく感じています。

福井鋳螺株式会社 勤務(勤務先は取材時のもの)

河島 佑介さん(物理工学専攻 2021年修了)

08

わたしの
ミカタ

興味関心の追求 || 成果の実現



私は「表情」といった人・感情を扱う分野に興味があり、福祉工学が専門の研究室を志望しました。配属後もイメージに変わりはなく、且つ、指導教官の方から、懇切丁寧な助言・指導をいただくことで研究を楽しく主体的に進めることができました。研究を通して実感したことは、人間は自分の興味・関心のあることに対してがむしゃらに取り組むことが出来る点です。「好きこそ物の上手なれ」ということわざがありますが、研究に関しても同様であり、自分が面白いと思えば、行動することで成果は付いてくると感じました。これから大学院を志望される方々も自分の本当にやってみたいことを明らかにして、有意義な研究室生活を送ってください。

オムロンソフトウェア株式会社 勤務(勤務先は取材時のもの)

南川 直紀さん(知能システム工学専攻 2020年修了)

09

わたしの
ミカタ

得られた結果に対し
「なぜ?」という疑問を抱く



大学院での研究は、思うような結果が得られず自分が思っているよりも研究が進まないことが多々あります。しかし、想定していなかった結果から、なぜそのような結果になったのか常々指導教員よりご指導を受けました。「なぜ?」ということを中心に考えていたおかげでPDCAを回す癖が学生時代に身に付き、大学院時代に培った経験が今の仕事でも活かしています。研究が上手いいかなくても一人で抱え込まず、指導教員や研究室の仲間に相談したり、時には息抜きとして思い切り遊んだりメリハリをつけ生活することが社会人になる前のステップとしては、とても貴重な経験だと思います。

株式会社クラレ 勤務(勤務先は取材時のもの)

永濱 寿章さん(繊維先端工学専攻 2021年修了)

10

わたしの
ミカタ

資料の中の熟語ひとつひとつまで
根拠を持って記載し、
内容に妥協しないこと。



大学院生活では、先生の勤めで原子力学会や国際学会等へ参加し、大勢の前での研究発表を多く経験しました。発表資料作成時や毎週の打ち合わせの時間は、専攻内でも過去最長(当時)と思われるほどであり、その中では、先生から技術的な内容と共に、「資料の作り方」や「文章の書き方」を徹底にご指導いただき、「熟語ひとつに対しても根拠を持ち記載すること」や「資料の内容に妥協しないこと」を学びました。また、多くのプレゼンを通して、伝わりやすい話し方、間の取り方についても身につけることが出来ました。現在仕事をする上で最も役立っている経験です。経験の場を紹介いただき、指導していただいた先生に感謝しております。

関西電力株式会社 勤務(勤務先は取材時のもの)

奥出 陽香さん(原子力・エネルギー安全工学専攻 2017年修了)

数多くの実績で 学生のキャリアアップを全力で支援

高い就職率

複数学部を有する
卒業生1,000人以上の国立大学で

14年連続 全国1位

福井大学全体の実就職率 97.2%

2021年度 修了者

工学研究科博士前期課程修了生の就職率は99.6%

実就職率ランキング 複数学部を有する国立大学

	1位		2位		3位	
	大学名	実就職率	大学名	実就職率	大学名	実就職率
2021	福井大学	97.2	宮崎大	93.9	群馬大	93.1
2020	福井大学	97.9	九州工大	95.0	群馬大	94.7
2019	福井大学	97.0	岐阜大	94.4	九州工大	94.0
2018	福井大学	97.3	岐阜大	94.8	三重大	94.0
2017	福井大学	97.4	九州工大	95.5	秋田大	93.9
2016	福井大学	96.8	九州工大	95.8	三重大	94.3
2015	福井大学	96.1	群馬大	94.0	九州工大	93.9
2014	福井大学	96.7	九州工大	94.4	東京工大	93.8
2013	福井大学	95.8	名古屋大	94.2	東京工大	93.5

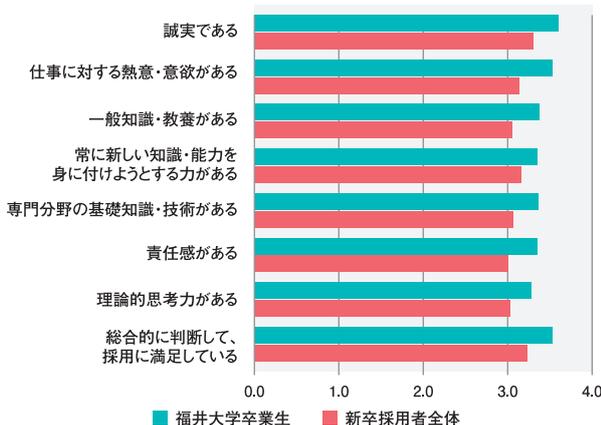
※実就職率は大学通信の「全国大学実就職率ランキング」
実就職率 = 就職者数 ÷ (卒業生数 - 大学院進学者数) × 100

高い人材力

01 就職先から高評価

人間力・学力ともに **高水準**

本学の工学研究科で学ぶ大学院生は、専門性を高めるとともに、問題解決能力や実行力など総合的な実践的能力を修得します。修了生は就職先企業等から、高い評価を得ています。

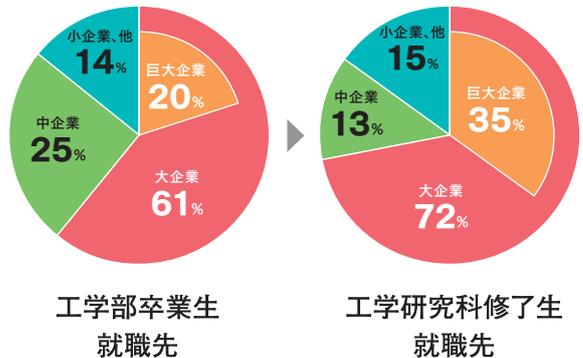


平成28年度～30年度に工学研究科修了生を採用した企業等からの評価
(調査時期 令和元年8月)

02 企業規模別の就職状況

より広がる **企業の選択肢**

工学研究科修了生は、工学部卒業生よりも、規模の大きな企業に就職する傾向があります。



巨大企業=従業員3,000人以上 大企業=従業員300～2,999人
中企業=従業員100～299人 小企業=従業員99人以下

調査対象: 令和3年度工学部卒業生、工学研究科修了生

大学院修了生の就職データ ～過去5年間主な就職先～

各コースの主な就職先の企業です。県内外問わず、業界でも規模の大きな企業に就職できていることが分かります。

繊維先端工学コース

クラプラスチックス株式会社
スズキ株式会社
セーレン株式会社
トヨタ紡織株式会社
フタバ産業株式会社
株式会社福井村田製作所
住江織物株式会社
住友ゴム工業株式会社
住友理工株式会社
グンゼ株式会社

創造生産工学コース

オーエスジー株式会社
荏原環境プラント株式会社
株式会社UACJ
株式会社デンソー
株式会社小糸製作所
株式会社不二越
株式会社福井村田製作所
三菱マテリアル株式会社
住友理工株式会社
中西金属工業株式会社
豊田合成株式会社

材料開発工学コース

アイカ工業株式会社
イビデン株式会社
トヨタ車体株式会社
株式会社アドヴィックス
三菱ケミカル株式会社
住友電装株式会社
トヨタ紡織株式会社
日東シンコー株式会社
セーレン株式会社
日華化学株式会社

生物応用化学コース

アビ株式会社
フタバ産業株式会社
株式会社ワイエムシー
大阪有機化学工業株式会社
福井キヤノンマテリアル株式会社
協和キリン株式会社
日本新薬株式会社
住友理工株式会社
塩野フィネス株式会社
前田工織株式会社

経営技術革新工学コース

株式会社jig.jp
株式会社ディーファイブコンサルティング
株式会社ビジネスブレイン太田昭和
日本電産株式会社
日華化学株式会社

機械設計工学コース

セイコーエプソン株式会社
リンナイ株式会社
株式会社SUBARU
株式会社マキタ
株式会社豊田自動織機
日清フーズ株式会社
豊田合成株式会社
川崎重工業株式会社
株式会社神戸製鋼所
株式会社福井村田製作所

電気システム工学コース

いすゞ自動車株式会社
株式会社福井村田製作所
株式会社豊田自動織機
京セラ株式会社
福井放送株式会社
北陸電力株式会社
パナソニック株式会社
株式会社アイシン
株式会社トヨタシステムズ
関西電力株式会社

建築土木環境工学コース

NDS株式会社
株式会社竹中土木
株式会社日本ビーエス
株式会社奥村組
大和ハウス工業株式会社
住友林業株式会社
株式会社熊谷組
株式会社大林組
中日本高速道路株式会社
西日本旅客鉄道株式会社

原子力安全工学コース

MHINSエンジニアリング株式会社
関西電力株式会社
原子力規制庁
国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
中部電力株式会社
東京電力ホールディングス株式会社
日本原子力発電株式会社
北陸電力株式会社
SUS株式会社株式会社
日本原燃株式会社

知能システム科学コース

キオクシア株式会社
株式会社アドヴィックス
株式会社デンソー
株式会社メイテック
株式会社日産オートモーティブテクノロジー
株式会社日立ハイテック
株式会社日立産業制御ソリューションズ
三菱電機コントロールソフトウェア株式会社
凸版印刷株式会社
豊田合成株式会社

情報工学コース

三菱電機株式会社
大同メタル工業株式会社
東芝システムテクノロジー株式会社
日本電信電話株式会社
株式会社トヨタシステムズ
株式会社野村総合研究所
デンソーテクノ株式会社
富士通株式会社
三谷商事株式会社
株式会社江守情報

数理科学コース

Acroquest Technology株式会社
オプティカルフィールドシステム株式会社
セーレン株式会社
株式会社NSソリューションズ中部
福井鋳螺株式会社

電子物性コース

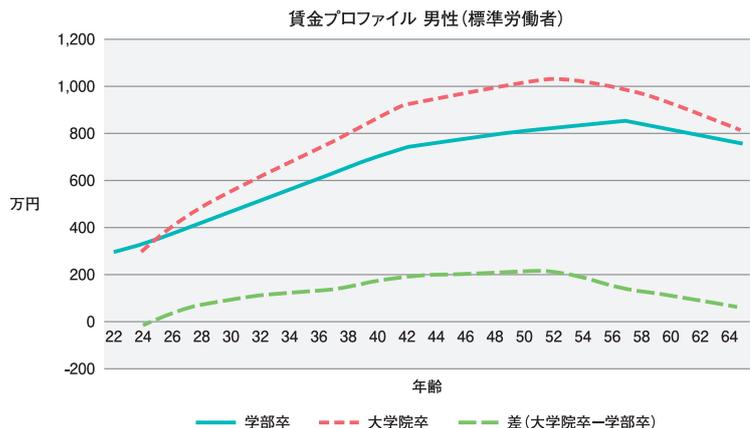
ジェイアール東海コンサルタンツ株式会社
セーレン株式会社
デンソーテクノ株式会社
パナソニック株式会社
ローム株式会社
株式会社村上開明堂
株式会社福井村田製作所
住友電装株式会社
日本航空電子工業株式会社
日本精工株式会社

電磁工学コース

NECソリューションイノベータ株式会社
ソホビービー株式会社
株式会社TOP
株式会社アルプス技研
株式会社ニデック
株式会社福井村田製作所
三栄ハイテックス株式会社

学部卒業者と大学院修了者の年齢－賃金プロフィール

全国的に、大学院修了の方が学部卒業者よりも生涯賃金収入が高いことが、内閣府経済社会総合研究所発行の論文において発表されています(右図は、男性の正規労働者で転職がない場合)。大学院修了者と学部卒業者の生涯賃金収入の差は、男性の場合には4,846万円、女性の場合には4,334万円と報告されています。



出典: 柿澤 寿信、平尾 智隆、松繁 寿和、山崎 泉、乾 友彦 "大学院卒の賃金プレミアム-マイクロデータによる年齢-賃金プロフィールの分析" ESRI Discussion Paper No.310(2014).

あなたのやる気をしっかりサポート。

「家庭の事情を考えると大学院進学は…」なんて考える人も多いようですが、大学院には、学部以上に経済的サポート態勢が充実しています。

授業料免除制度

経済的理由であきらめることはありません。

大学院の授業料は学部と同額の年額535,800円です。この金額を5月と11月に半期分(267,900円)ずつ納めることになっていますが、授業料免除の制度があります。

この制度は、経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる学生については、本人の申請に基づき選考のうえ、授業料の全額あるいは

半額が免除されるというものです。

また、授業料免除制度は、授業料の納付前6ヶ月以内に、学資をご負担頂いている方(学資負担者)がお亡くなりになった場合や、学生あるいは学資負担者が風水害等の災害を受けるなどといった特別な事情により授業料の納付が著しく困難になった場合にも適用されます。

令和3年度後期実績では、申請者148名の

うち、91名が全額免除、53名が半額免除となり、9割の申請者が免除許可になりました。

学生ポータル及びホームページにて授業料免除の申請についてお知らせしますので、この制度の利用を考えている学生は必ず確認してください。

授業料
535,800円／年



全額免除

又は

半額免除

条 件

- ・経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる学生
- ・授業料の納付前6ヶ月以内に、学資をご負担頂いている方(学資負担者)が亡くなった場合
- ・学生あるいは学資負担者が災害を受けるなどの特別な事情により、授業料の納付が困難になった場合

授業料免除状況

		博士前期					博士後期				
		学生数	申請数	免除 適格者	免除許可者		学生数	申請数	免除 適格者	免除許可者	
					全額免除	半額免除				全額免除	半額免除
令和2年度	前期	564	164	138	64	74	62	21	20	17	3
	後期	556	145	139	61	78	62	20	20	18	2
令和3年度	前期	553	122	112	59	53	71	29	27	20	7
	後期	540	112	109	67	42	73	24	23	18	5

奨学金制度

人物・学業共に優秀かつ健康であり、経済的理由により修学が困難と認められる者に対して、独立行政法人日本学生支援機構及び公益法人の奨学金等の奨学制度があります。

選考基準は 学生本人の収入です。

(独)日本学生支援機構奨学金の貸与を受ける場合には、学生本人からの申請が必要です。選考等については、学生本人の

収入(定職、アルバイト、父母等からの給付、その他奨学金等)及び学業成績を基に学内選考がなされ、(独)日本学生支援機構へ推薦された後、機構の審査により採用が決定します。

(独)日本学生支援機構奨学金のうち博士前期(修士)課程学生が貸与を受けられる金額は、無利子の第一種奨学金の場合月額で5万円又は8万8千円です。

また、有利子の第二種奨学金は、月額5万円、8万円、10万円、13万円、15万円の中から選択することが可能で、選考の基準

をクリアすれば第一種奨学金と第二種奨学金の併用貸与を受けることもできます。(独)日本学生支援機構奨学金の申請は、大学院へ進学する前に行う予約採用と進学後に募集される在学採用があります。予約採用は、4月から大学院への入学を希望している学生を対象に前年の秋頃に募集を行い、在学採用は入学後の4月(定期採用)および9月(二次採用)に募集を行います。

奨学金を受けるまでの流れ



返還は月々1万円 程度から。

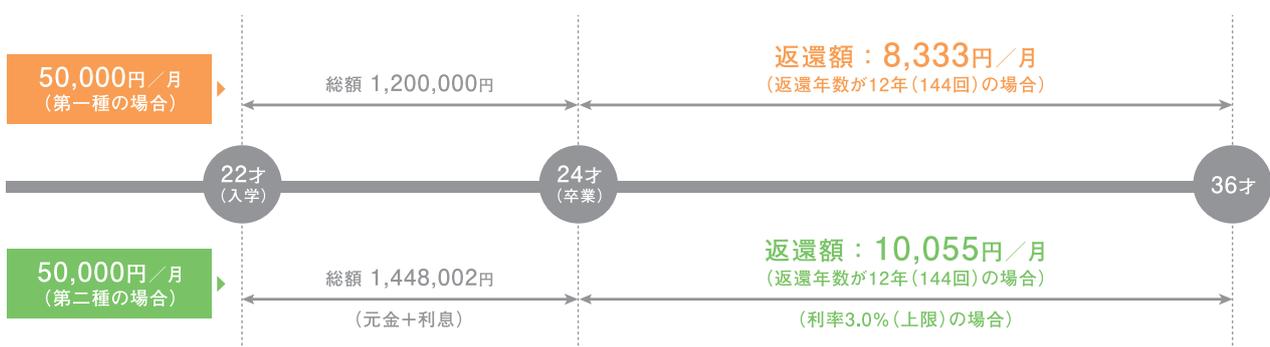
(独)日本学生支援機構奨学金は、大学院を卒業してから返還していただく貸与奨学金です。返還については、例えば、月額5万円を2年間借りた場合、返還年数を12年として利息を含めても、月々1万円程度の金額で返還が可能です。

特に優れた業績による 返還免除。

大学院において第一種奨学金(無利子)の貸与を受け、返還免除の申請をした結果、貸与期間中に「特に優れた業績」をあげた者として、日本学生支援機構から認定された場合には、貸与期間終了後に奨学金の全部または一部の返還が免除される制度があります。

(無利子)第一種奨学金
50,000円/月
88,000円/月
(有利子)第二種奨学金
50,000円/月
80,000円/月
100,000円/月
130,000円/月
150,000円/月

2年間借りた場合の奨学金返還(月賦返還の例)



TA制度

より深みのある学びのために。

TAに採用された学生は、教員の指導のもと学部学生をサポートしつつ、教えることを通じて学び、指導者としてのトレーニングを積み、主体的に学ぶ経験ができます。また、従事時間に応じて手当(博士前期課程学生時給1,100円、博士後期課程学生時給1,300円)が支給されますので、学生生活の支援にも繋がります。手当

TAとは?

ティーチング・アシスタント(Teaching Assistant)の略。教員の指導を受けて、教育の補助業務(学生実験の指導など)を行う大学院生のこと。

は多くありませんが、自分自身の研究に関連した業務も多く、大変有意義なアルバイトとも言えるでしょう。

また、博士後期課程学生になると、RA(Research Assistant)制度というものもあります。RAに採用された学生は、プロジェクト研究等に研究補助者として参画し、自身の研究と密接に関わる業務に

TA、RA制度について詳しく知りたい人は、工学系運営管理課までお問い合わせください。

携わり、研究遂行能力を高められます。また、勤務時間に応じて手当(時給1,300円)が支給されます。

利用者の声

「指導力が向上した。」「実験の理解が深まった。」「学内での縦の繋がりを持つ機会ができた。」「給与面での支援がよかった。」「大人数の前で話す練習になった。」「授業で教える事で復習になった。」「実験の準備等における要領や確認の大切さを学んだ。」

教務情報



大学院博士前期課程では、学生毎にPOSコミティ(Program of Study Committee)を設け集団指導体制をとっており、①カリキュラムのオーダーメイド化 ②プロジェクト型学習の推進といった「学生の個性に応じた総合力を育む大学院教育」を実施しています。

【履修・成績・修了関係】

教務課教務(工学)担当では、授業に関すること、履修に関する相談等に応じています。大学院学生便覧に掲載の教育課程(カリキュラム)について、履修方法や単位修得等わからないことがあれば、いつでもお気軽にお尋ねください。

留学情報

【福井大学生の海外留学】

大学の留学制度には、主に①短期海外研修プログラム、②交換留学の2つがあります。留学先での授業料免除、各種奨学金の受給や単位付与の可能性があるほか、出発前から帰国後まで様々なサポートを受けることができます。

●短期海外研修プログラム

海外の大学等に1週間から3か月程度留学し、語学研修、文化体験や学生交流、フィールドワーク、専門分野の講義の受講、学会発表や研究交流などを行います。多様な渡航先・研修内容から、各学生の目的や学習段階に合ったプログラムを選択して参加することができます。

●交換留学

半年から1年間、福井大学の学術交流協定校やUMAP加盟大学において、現地学生とともに正規開講科目の履修や研究、語学集中コースの受講等を行います。留学中も本学に在籍することで、派遣先大学における授業料が不徴収となるほか、留学期間は修了年限に含むことができます。

海外留学の情報や相談、外国人留学生の受け入れについては国際課までお問い合わせください。

▼ホームページ

<https://www.u-fukui.ac.jp/international/>

【外国人留学生の受け入れ】

福井大学では外国人留学生の受け入れを積極的に行っています。2022年5月1日現在、26ヶ国・地域131名の留学生が福井大学で学んでいます。留学生がスムーズに学生生活を送れるよう、渡日直後・帰国前オリエンテーション実施の他、在留資格に関する手続き、奨学金申請、住居関係の手続きなどの補助を行っています。また、レベル別の日本語授業の開講など、充実した日本語学習環境を提供しています。

体験談

タイのシーナカリンウィロート大学で2週間の文化・研究交流を行いました。現地学生と研究について議論し、食事やスポーツをする時間はとても有意義で、新たな考えや意欲が生まれました。



アメリカのノースカロライナ州立大学で約1か月半、マネジメントについて勉強しました。分からないことがあれば積極的に質問している現地の学生の姿が印象的かつ刺激的でした。



体験談

大学院というアドバンテージを活かすために。

最先端の知識と経験が要求される工学分野では、博士前期(修士)課程まで含めた6年間の教育を受けた人材が求められています。就職の際にも、学部卒よりも大学院卒の方が一般的には有利です。また、同じ企業に就職しても、学部卒よりワンランク上の仕事を任される場合が多いでしょう。工学研究科では、各専攻に就職担当の教員がおり、みなさんの相談に真剣に対応しています。もちろん、大学院生の場合、指導教員に相談してみるのも一案でしょう。福井大学では、「キャリア支援課」という強い味方もいます。

キャリア支援課の支援内容

就職情報の提供

本学に対する企業などからの求人情報やインターンシップ情報をデータベース化し、PC、スマートフォンのweb上から閲覧できる「キャリアサポートシステム」を構築しています。面談等の予約申込を始め、就職ガイダンスの録画映像もこのシステムを通して配信しています。また、企業からのパンフレットや就職関連本などを揃えており、自由に情報入手できます。

就職ガイダンスの開催

年間60回以上開催する就職ガイダンスでは、就職支援の専門家や先輩方による各種講演会を行い、就職活動に慣れない学生の不安解消に努めています。

キャリア相談

経験豊富なキャリアカウンセラーやスタッフ、就職担当教員が、就職活動の悩みについて個別相談に応じています。

就職についてのお問い合わせは、キャリア支援課までお気軽にどうぞ。



模擬面接・エントリーシート添削

キャリアカウンセラーによる模擬面接とエントリーシート添削を毎日実施しています(要予約)。ここで面接時のマナーや態度、発言内容に対する指導・助言を行ったり、志望理由などの文章の添削を行います。教員、公務員希望者にも対応します。(Web面接も実施します)。



業界研究会・企業説明会

企業の情報収集やマッチングの機会として、学内合同企業研究会、学内個別企業説明会を開催しています。学内合同企業研究会では、11月、12月、1月の3か月間にわたりオンラインで実施し、約200社の企業及び官公庁が参加。また、各種業界・企業研究会は1年中開催しており、企業との出会いの場を設けています。



就職支援 14連覇

大学通信の2021年度調査による「全国大学実就職率ランキング」において、複数学部を有する卒業生1,000人以上の国立大学で14年連続1位となりました。

入試について

「大学院、面白そうだね。」と思っている人たちのために、大学院入試について説明します。

大学院は興味のあるモノをさらに探究できる場です。

福井大学工学研究科には、工学系のほぼ全分野にわたり様々な研究を行っている先生方がいます。自分が研究したい分野が決定したら、事前にその分野の先生にコンタクトをとってください。

「興味のあるモノ」を先生方と話すこと

で、より具体的な研究・進学のアドバイスが得られると思います。

先生の研究分野については、本学ホームページの「教育研究者検索」で確認してください。

学部学生時代の成績が優秀である場合、「推薦選抜」で入学する方法があります。あなたが本学の学生なら、まずは、助言教員や指導教員に相談してください。また、社会人や外国人留学生の場合には、特別選抜で入学する方法もあります。

大学院入試の「過去問」については、本学生協2F事務室(0776-21-2956 office@fu-coop.or.jp)へお問い合わせください。



入試情報はこちらから

https://www.u-fukui.ac.jp/user_admission/examination/

入試についてのお問い合わせは、学生交流センター3階、入試課まで。

	博士前期課程		博士後期課程(10月入学/4月入学)
	推薦選抜	一般選抜/社会人特別選抜/ 外国人留学生特別選抜	一般選抜/社会人特別選抜/ 外国人留学生特別選抜
募集要項公表	5月上旬		
募集人員	全3専攻14コースで合計253名		22名
出願期間	6月上旬	8月上旬	8月上旬
選抜日	6月下旬	8月下旬	9月上旬
合格者発表	選抜日後約2週間		選抜日後約2週間
入学手続期間	11月中旬		10月入学:9月下旬/4月入学:11月中旬

出願資格など、詳しくは、各募集要項でご確認ください。

本学ホームページ(<https://www.u-fukui.ac.jp>)の「入試情報」には、入試に関するお知らせを掲載している場合があるので、ご確認ください。

学生相談

大学院では研究が中心となり、学部時代とは大きく異なる学生生活になってきます。長時間の実験や学会発表など、肉体的・精神的負担も大きくなりがちで、それに伴いさまざまな悩みを抱え込む学生さんも少なくありません。小さなことでも自分ひとりで抱え込まずに誰かに相談することが大事であり、相談することで、自分では気づかなかった解決策が見いだせ

る場合もあります。学生総合相談室では、学業のこと、友人や教員などとの人間関係、将来のことなど、さまざまな相談に常駐しているカウンセラーが対応します。

何か悩みごとがあれば、どんな小さなことでもかまいませんので、気軽に学生総合相談室を利用してください。私たちが悩みの解決策を一緒に考えます。



学生組合相談室

TEL:0776-27-9986、9987

E-Mail:g-soudan@ad.u-fukui.ac.jp

HP:<http://soudan.ad.u-fukui.ac.jp/>

(福井大学HP→学生生活・就職→相談・意見・質問)

障がいのある学生への支援

障がいのあるなどの理由により、修学上何らかの支援が必要な学生の相談に応じ、合理的配慮の提供に向けた調整を行っています。修学面や学生生活面にお

いて支障を感じたり、支援を受けたい場合は、右記までご相談ください。



保健管理センター TEL:0776-27-8513

学生総合相談室 TEL:0776-27-9986、9987

HP:https://www.u-fukui.ac.jp/cont_life/confer/support/

(福井大学HP参照)

2020年4月に「3専攻14コース体制」に改組

将来の産業構造の変革に対応できるスペシャリストとしての深い専門知識と同時に、ジェネラリストとしての幅広い知識・視野を持つ人材を育成するため、産業分野を3つのグループ(ものづくり、社会インフラ、情報化社会基盤)に括り、各グループに対応する分野横断型の専攻を、福井大学の強みも考慮して設置しました。各専攻の概要は以下の通りです。

産業創成工学専攻

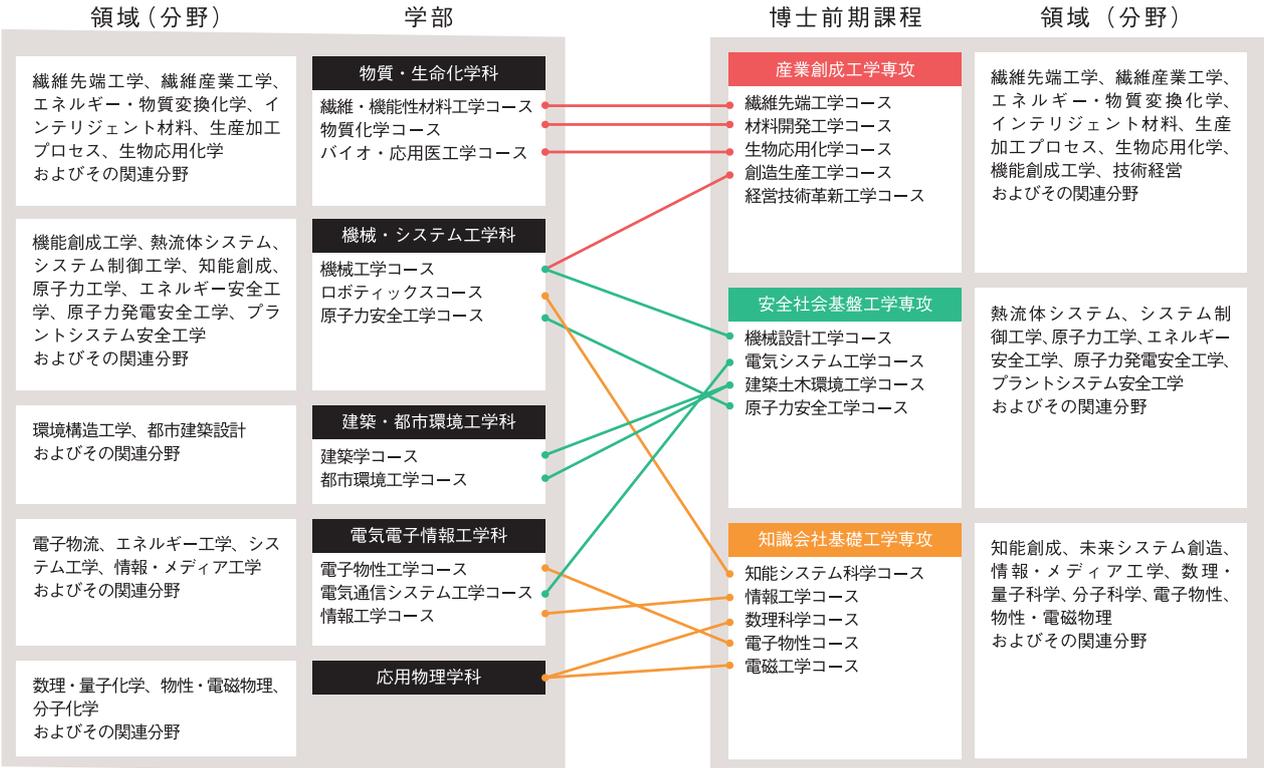
化学やバイオ、機械に関連する基盤技術に関する知識と技術経営に関する知識とを融合し、繊維等の特色ある地域産業や自動車等の輸送機器産業、医療や農業、食品産業などのさまざまな産業・分野における活発な発展に資する研究開発とその教育を行い、「ものづくり」に加え「ことづくり」をも担う人材を育成します。

安全社会基盤工学専攻

エネルギーの安定的確保や持続可能な都市・地域のための社会基盤実現が社会から強く求められている中、そのような安全・安心で快適・効率的な社会を創造し持続するために必要な社会の抱えているリスクの軽減や人類の利便性の向上に資する研究開発とその教育を行い、持続可能な社会の創造に必要な技術革新に取り組み、新たな社会基盤技術の創出に貢献する人材を育成します。

知識社会基礎工学専攻

第3次産業革命(情報・通信)および第4次産業革命(ロボット・知能システム)の技術革新を利活用して、人々が快適で活力に満ちた質の高い生活を送ることのできる人間中心の社会(Societyファイブ5.0)の実現に向けた、知識基盤社会に資する基礎研究およびその教育を行い、Society5.0で示された新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域で活動の基盤として飛躍的に重要性を増す社会である「知識基盤社会」を支える工学を担う人材を育成する。



産業創成工学専攻 繊維先端工学コース

繊維・ファイバー工学に関する確固とした専門知識と倫理観を持ち、繊維系・化学系企業や研究機関をはじめ、繊維材料を利用する様々な業種の研究開発に積極的に対応し、かつ問題解決のための専門知識を自ら継続的に修得できる能力を有する人材を育成します。



SUVE Shin-ichiro

末 信一郎〔教授〕

繊維先端工学分野

- ・遺伝子工学を用いた新しい分子変換素子の創製とバイオセンサや環境に優しい技術への応用
- ・新しいバイオ技術で未来社会を実現しよう



TANOUE Shuichi

田上 秀一〔教授〕

繊維先端工学分野

- ・高分子成形加工で見られる熱・流動計算。押出機を使った材料開発とその応用
- ・研究開発に携わるための第一歩は大学院進学です

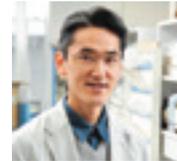


NAKANE Koji

中根 幸治〔教授〕

繊維先端工学分野

- ・有機・無機ハイブリッド材料の創製と応用。機能性繊維の開発。
- ・材料が進むと技術が進む。繊維材料開発は様々な技術の発展に欠かせません。



HISADA Kenji

久田 研次〔教授〕

繊維先端工学分野

- ・界面を利用した分子組織体の構築と機能発現
- ・分子を組織的に集合させると単分子では実現できない機能を発現します。



FUJITA Satoshi

藤田 聡〔教授〕

繊維先端工学分野

- ・細胞レベルでの生命機能の制御を目指したバイオマテリアルの開発と医療への応用
- ・新しい材料で医学・生物学にイノベーションを起こします



YAMASHIRA Yoshitro

山下 義裕〔教授〕

繊維物性

- ・ナノファイバーを用いた生体材料とマスクなどのフィルターの研究をしています。また熱可塑性炭素繊維複合材料の研究をしています。



UEMATSU Hideyuki

植松 英之〔准教授〕

繊維先端工学分野

- ・強化繊維と高分子マトリクスの界面特性と複合材料の力学特性の関係を明らかにし、高分子のレオロジーの観点を含め成形加工性・構造・機能性を制御することを目指す



SAKAMOTO Hiroaki

坂元 博昭〔准教授〕

繊維先端工学分野

- ・金属や繊維表面へ精密に分子修飾された機能性材料の創出を目指します。さらに、得られた材料をエネルギー変換・センシング材料として応用展開します



HIROGAKI Kazumasa

廣垣 和正〔准教授〕

繊維先端工学分野

- ・超臨界流体や電子線による絨維・高分子材料の機能加工、界面・コロイド化学を応用した構造発色材料の創出に関わる研究に取り組んでいます



HIRATA Toyaki

平田 豊章〔講師〕

繊維先端工学分野

- ・今や私たちの日常生活にはなくてはならないものである高分子。その高分子の構造と物性を理解し制御することを目的として研究を行っています



ASAI Hanako

浅井 華子〔講師〕

繊維先端工学分野

- ・ナノ繊維という、1000分の1ミリメートル未満の極細繊維を用いて、新たな機能性材料を作製したり、その構造と物性との関係について研究しています



TAKAMURA Eitcho

高村 映一郎〔講師〕

繊維先端工学分野

- ・優れた機能が多く存在する生物。そのような生体機能の模倣応用を遺伝子工学・材料化学・電気化学等の様々な手法を用いて目指しています。

〔客員教授〕

繊維産業工学分野

松田 光夫

MATSUDA Mitsuo

〔客員准教授〕

繊維産業工学分野

水囊 満

HIZUNO Mitsuru

繊維先端工学分野

馬場 俊之

BABA Toshiyuki

産業創成工学専攻 材料開発工学コース

持続可能な社会に貢献する新素材・機能性材料の開発に向けた独創的かつ論理的な研究にリーダーシップを持って取り組む能力を有し、地域社会や国際社会で活躍できる高い倫理観とチャレンジ精神を兼備した人材を育成します。



UCHIYAMA Tomohiro

内村 智博 [教授]

エネルギー・物質変換化学分野
・材料・食品・環境試料の高精度分析法の開発、反応状態解析法の開発
・予想外の結果を楽しもう！



SAKAGUCHI Toshikazu

阪口 壽一 [教授]

エネルギー・物質変換化学分野
・空気中から地球温暖化ガスや酸素を取り出すための分離膜材料の研究。ディスプレイや照明などに利用される新しい発光高分子材料の研究。



SASAKI Takashi

佐々木 隆 [教授]

インテリジェント材料分野
・ナノサイズの高分子材料の合成とそのガラス転移ダイナミクス、結晶化、融解挙動の研究
・研究を通じて科学を楽しんでください。



TOKUNAGA Yuji

徳永 雄次 [教授]

エネルギー・物質変換化学分野
・分子認識のためのナノ空間設計とその創製



TOBITA Hidetaka

飛田 英孝 [教授]

生産加工プロセス分野
・高分子の合成と構造の橋渡しをする反応工学的研究が専門です。
・新発見を通じて自分の世界観が変わる「目から鱗」の体験はヤミツギになります。



HASHIMOTO Akihito

橋本 保 [教授]

エネルギー・物質変換化学分野
・精密重合による新構造・高性能分子の合成、分解・リサイクルが可能な高分子材料の開発
・資源循環型社会の形成に材料開発の分野からアプローチします。



IRIE Satoshi

入江 聡 [准教授]

インテリジェント材料分野
・透過電子顕微鏡法などを用いた有機分子薄膜や高分子薄膜の構造形成過程に関する研究



OKADA Takashi

岡田 敬志 [准教授]

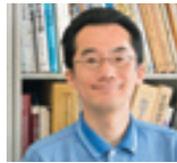
エネルギー・物質変換化学分野
・高温融体を反応場とした分離・合成・表面処理に関する研究を行っています。それによる、貴金属回収や環境浄化を目的としたリサイクル材料・機能性材料の開発を目指しています。



KIM Jae-Ho

金 在虎 [准教授]

エネルギー・物質変換化学分野
・精密フッ素処理技術とナノめっき技術を用いた様々な機能性材料の表面改質に関する研究。電池材料や光触媒環境材料、自動車部品用複合材料などに応用しています。
・自分の夢を持ちましょう！



SUZUKI Kiyoshi

鈴木 清 [准教授]

生産加工プロセス分野
・乳化重合等の不均一系ラジカル重合の機構解明&高分子微粒子調製
・未解明現象を解明するため、共に学び研究しましょう。



TANAKA Yutaka

田中 穰 [准教授]

インテリジェント材料分野
・コロイドのゾルーゲル転移をレオロジーの観点から対象にして新しい材料を作っています。特にレオロジーという聞きなれないところにこだわっています。



NAITO Masaya

内藤 順也 [講師]

エネルギー・物質変換化学分野
・望みの物質を創造する合成化学の技術を用いて、音や圧力、光、熱などの外部刺激により運動性や集合能を制御できる分子の創出に取り組んでいます。

産業創成工学専攻 生物応用化学コース

「化学」と「バイオテクノロジー」を基盤として、両者の学際領域における教育と研究を推進し、人類の健やかな生活と持続可能で豊かな社会の実現に貢献するための高い倫理観と高度な知識・技術を身につけた人材を育成します。



OKI Masaya

沖 昌也〔教授〕

生物応用化学分野
・DNA 配列に依存しない遺伝子発現調節機構「エビジェネティクス」の研究を行っています。新しい研究分野でまだまだ謎だらけです



KONISHI Yoshiyuki

小西 慶幸〔教授〕

生物応用化学分野
・脳神経回路がどのようなシステムによって形成されるのかを、分子や細胞のレベルで明らかにするとともに、これらを人為的に制御することを目指しています



SAKURAI Akihiko

櫻井 明彦〔教授〕

生物応用化学分野
・微生物や酵素を用いた環境浄化システムの開発、新型バイオリアクターの開発、未利用資源を利用した有用物質生産、キノコを用いた生理活性物質の生産などに取り組んでいます。



SUGIHARA Shinji

杉原 伸治〔教授〕

生物応用化学分野
・新しい精密（リビング）重合システムの開発、外部刺激応答性ポリマーの合成と応用、精密重合誘起自己組織化による種々のナノ組織体合成と応用



MAEDA Yasushi

前田 寧〔教授〕

生物応用化学分野
・「生物にならったかきこい高分子」を作り、その構造と機能を光を使った測定を通して解明していくことを目標として研究を進めています



YOSHIMI Yasuharu

吉見 泰治〔教授〕

生物応用化学分野
・紫外光を用いた環境に優しい新規な有機反応の開発、およびその光反応を利用したペプチドなどの生理活性物質の直接的な化学変換による高機能化



SATOMURA Takenori

里村 武範〔准教授〕

生物応用化学分野
・極限環境に生息する微生物が生産する酸化還元酵素の機能解析とその応用方法の開発



SUZUKI Yu

鈴木 悠〔准教授〕

生物応用化学分野
・シルクなどの天然高分子について、立体構造と機能の関係を明らかにし、その知識を活かして新しい材料を開発することを目標に研究を行っています



TAKAHASHI Naoki

高橋 透〔准教授〕

生物応用化学分野
・専門は分析化学です。化学システムを駆使し、物質の“量”的、および“質”的情報を提供するための新しい計測法を探索しています



TERADA Satoshi

寺田 聡〔准教授〕

生物応用化学分野
・ヒトなど高等生物の細胞を活用します。細胞を用いてバイオ医薬品が生産されたり、再生医療も実施されますが、その活用技術を開発しています



KAJITA Masashi

梶田 真司〔助教〕

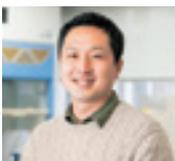
生物応用化学分野
・理論と定量データに基づく生命現象の数理モデリングを通じて、生命の普遍的原理の理解、生命現象の予測・制御による医学・工学応用を目指しています



TSUJI Gakushi

辻 岳志〔助教〕

生物応用化学分野
・染色体の構造がダイナミックに変動することで、同じ遺伝子から様々な臓器・器官への分化が可能になります。この仕組みを人工的に作り制御することを目指しています。



MATSUMOTO Atsushi

松本 篤〔助教〕

生物応用化学分野
・私たちはネバネバ、サラサラといった言葉を用いて“もの”の性質を表現します。私の研究では、これら身の回りにある“もの”の性質を、レオロジーという学問を通じて分子レベルで解明する研究を行っています。



MIYATA Mai

宮田 真衣〔助教〕

生物応用化学分野
・昆虫に共生する細菌が宿主昆虫の進化や生態に及ぼす影響を明らかにするとともに、その細菌の機能を害虫の防除に活かすことを目指しています。

産業創成工学専攻 創造生産工学コース

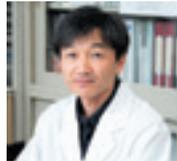
機械工学を基盤とし、ナノ・マイクロ・マルチスケールにおける材料の特性・設計・加工・評価に関する教育研究を通して、材料から製品さらには寿命までを一気通貫で理解し、全体を俯瞰できる知識・技術を有して、創造的なものづくりを通して産業創成に貢献する人材を育成します。



OHTSU Masaki

大津 雅亮〔教授〕

機能創成工学分野
・鉄やアルミニウム、チタン、マグネシウムなどの金属に力を加えて変形させて自動車や眼鏡などの金属部品を製造する塑性加工について研究しています



HONDA Tomomi

本田 知己〔教授〕

機能創成工学分野
・機能表面設計、ナノ・マイクロトライボロジー、潤滑油劣化診断、新材料の摩擦摩耗解析、摩擦制御
・自分の能力に気づき、それを高める楽しい研究がここにあります



OKADA Masato

岡田 将人〔教授〕

機能創成工学分野
・超硬合金などの難削材加工や金属表面の平滑化と改質層生成を同時に実現するパニシング加工の研究
・皆さんと共に先進的な技術開発ができる日を楽しみにしています



HIYOSHI Noritake

旭吉 雅健〔准教授〕

機能創成工学分野
・はんだや鉄鋼材料のクリープ疲労寿命評価に関する研究
・ユニークな実験研究による貴重なデータを蓄積して、世の中に還元します



LEI Xiao-Wen

雷 霄雯〔准教授〕

機能創成工学分野
・マクロな材料はナノスケールで見ると原子や分子などミクロ構造で構成されている。理論・計算によりミクロな構造が力学特性や機能を生み出すメカニズムに関する研究を行なうことで、新しい機能を設計するための知見の獲得を目的とする



KON Tomohiko

今 智彦〔助教〕

・潤滑油診断や潤滑油における摩擦摩耗解析といったトライボロジーに関連した研究を行っています。
・皆さんと共に研究ができる日を楽しみにしています。

産業創成工学専攻 経営技術革新工学コース

産業活動を通じて得られた成果を科学的観点から工学的な進歩に関連づけ、新しい価値の創造とその社会提供に関する研究に主体的に取り組み、地域産業界や地域社会の発展に寄与できる経営感覚とアントレプレナー精神を具備した人材を育成します。



TAKEMOTO Takuji

竹本 拓治〔教授〕

・企業や組織の成長にアントレプレナーシップ人材が不可欠です。ことづくり概念やシリアスゲームなど、従来とは異なる手法を応用できる柔軟な人材を目指しましょう。



YONEZAWA Susumu

米沢 晋〔教授〕

エネルギー・物質変換化学分野(産学官連携本部)
・「フッ素」を用いた材料開発を行っています。安全なリチウム電池をはじめ、ニッケル水素電池、燃料電池などの新しい材料を創製しています。
・皆さんは未来を変える「力」を持っています。



YAMAGUCHI Mitsuo

山口 光男〔講師〕

・経営学、なかでも組織理論や技術経営(MOT)のフレームワークを用いた実証的研究
・「価値づくり」のために、「ものづくり」をどう活用するか考えていきましょう。



NISHIMURA Fumihiro

西村 文宏〔助教〕

・無機フッ素化学、表面科学、機器分析を主なフィールドにしています。
・学内外から持ち込まれる試料を複数の分析機器を使って、何が起ったかを科学的に明らかにしています。複数の分析結果と材料の知識を合わせ、試料の見えなかった事が見えてくる面白さが機器分析にはあります。

安全社会基盤工学専攻 機械設計工学コース

機械工学を基盤とし、熱流体システムにおけるエネルギー利用技術の高度化および機械システムにおける動的設計と計測制御に関する教育研究を通して、ハードとソフトの両面から環境に調和した快適な社会生活を過ごすための安全・安心のものづくりを支え、高い倫理観と高度な専門技術を有して、国際社会で活躍できる機械技術者を育成します。



TANAKA Futoshi

田中 太〔教授〕

熱流体システム分野
・散水設備（例：スプリンクラー）による火災抑制性能と閉空間（例：トンネル）火災時における煙流動現象の解明に取り組んでいます



NAGAI Niro

永井 二郎〔教授〕

熱流体システム分野
・沸騰急冷開始条件の解明、沸騰データベース構築と機械学習、地中熱利用システムの開発などを研究
・「熱」エネルギーの有効利用が世界を救うことを信じて



YAMADA Yasuhiro

山田 泰弘〔教授〕

システム制御工学分野
・機械システム、生産システム



MESHII Toshiyuki

飯井 俊行〔教授〕

エネルギー安全工学分野
・構造物の限界強度評価を可能とするための研究を通じて、構造、材料を安心して長期使用できるようにするための支援を行っています



ITO Shingo

伊藤 慎吾〔准教授〕

システム制御工学分野
・メカトロニクスと精密モーション制御の研究。機械・電子・制御・光学を融合するスマートシステム開発を、製造と計測および自動化に適用しています



OHTA Takashi

太田 貴士〔准教授〕

熱流体システム分野
・数値流体力学、乱流の解析と制御、数値シミュレーションによって、複雑な流体現象のメカニズムを解明し、現象の予測と制御を実現するための基礎的な研究



KAWAI Masayuki

川井 昌之〔准教授〕

システム制御工学分野
・各種ロボットの研究



DANG Chaobin

党 超鋌〔准教授〕

熱流体システム分野
・データセンタの冷却と熱回収利用、太陽エネルギーコジェネレーションの開発など環境調和型エネルギーシステムの構築
・革新的なヒートポンプ技術の開発・評価、表面改質による新規伝熱機器の開発



YOSHIDA Tatsuya

吉田 達哉〔准教授〕

システム制御工学分野
・粒状体の力学・拳動シミュレーションおよび弾性体との連成振動のシミュレーションに関する研究に取り組んでいます



FUKUSHIMA Akimori

福島 啓悟〔講師〕

熱流体システム分野
・数値計算を用いた包括的な伝熱現象の解析を行っている。現在は主に、分子シミュレーション及び電子状態計算を用いたナノ構造体の特性解析を行っている

安全社会基盤工学専攻 電気システム工学コース

高度・知的情報処理システムを実現していくための基礎及び応用研究を行っており、主に以下の分野からなっております。

- システム工学・計測・制御、システム工学基礎、情報通信システム
- 回路・システム理論を基礎とした、新しいシステム技法やソフトウェア技術の研究分野
- 高速、高信頼かつ安全な情報通信のための通信方式、誤り制御符号、情報セキュリティに関する研究分野
- 情報の画像化と画像処理の研究分野



WANG Ronglong

王 栄龍 [教授]

システム工学分野
・ソフトコンピューティング、最適化問題の近似アルゴリズム、画像処理



OHARA Atsumi

小原 敦美 [教授]

システム工学分野
・ロボット・ロケットの軌道制御、電気自動車のモータ制御などの身近な理工学分野でも有用なシステム制御と最適化に関する研究を主に行っています



HIROSE Shoichi

廣瀬 勝一 [教授]

システム工学分野
・安心して利用できる安全な情報通信を実現するための暗号と情報セキュリティに関する研究をしています



ASUBAR Joel Tacla

アスバルジョエルタクラ [准教授]

電子物性分野
・化合物半導体電子デバイス
・地球に優しい最先端の窒化ガリウム系デバイスの設計と開発



IITO Masakazu

伊藤 雅一 [准教授]

電力システム分野
・太陽光や風力などの変動する再生可能エネルギーを、より多く、使いたいときに使えるよう、再エネ自身の研究と電力ネットワークの研究を行っています。



KIMURA Kinji

木村 欣司 [准教授]

システム工学分野
・離散可積分系・計笠機代数（数式処理ソフトウェア）・数値線形代数ライブラリ（データサイエンスのための基本ソフトウェア）の研究を行っています。



SAKAGUCHI Fumihori

坂口 文則 [准教授]

システム工学分野
・微分方程式の整数型解法、作用素代数の工学への応用、局在型の波束と微分演算子の関係、統計的信号処理



MORO Seichiro

茂呂 征一郎 [准教授]

システム工学分野
・結合非線形発振系に見られる諸現象の解析とその応用
・大学院では知識の吸収だけでなく自ら探求することが重要で



SHIGENBU Ryuto

重信 颯太 [講師]

電力システム分野
・電力系統と再エネが融合した電力システムの解析・制御・運用を基に次世代スマートグリッドに関する研究をしています。自分の手でエネルギーの未来を切り拓きませんか。



TANABE Hidehiko

田邊 英彦 [助教]

システム工学分野
・インターネットや携帯電話などに用いられる通信システムにおいて、雑音等によって生じる誤りを訂正・検出する研究を行っています。

安全社会基盤工学専攻 建築土木環境工学コース

建築・都市・地域・国土を対象に、理想的な社会・生活空間を探求します。環境構造工学分野では、安全・安心な建築物・土木構造物の実現に向け、地球活動や自然エネルギーのコントロールと利用、構造システムの挙動などを教育研究し、都市建築設計分野では、建築・都市空間における心理・生理・人間行動・社会生活などを軸に、社会科学・数理科学・人文科学の観点から教育研究を行います。



AKASHI Yukio

明石 行生 [教授]

都市建築設計分野
・ヒトと光の関わりを探究し、人と地球にやさしいあかりを提案します
・研究の合間には、イルミネーション・イベントを楽しみましょう



ISHIKAWA Koichiro

石川 浩一郎 [教授]

環境構造工学分野
・金属系及び木質系建築構造物の応答性能に基づく耐震性能評価
・空間構造のアルバム (www.aloss.jp) をご覧ください



ISO Masato

磯 雅人 [教授]

環境構造工学分野
・鉄筋コンクリート造建物の構造性能評価、損傷制御、補修・補強、リサイクル、工構法の開発
・建築は奥深い分野です。建築をぜひ愛して下さい



KAWAMOTO Yoshimi

川本 義海 [教授]

都市建築設計分野
・人と環境に優しく、かつ持続可能な地域社会の構築を支える交通のあり方、魅力的な都市空間づくりを実現するための、さまざまな計画思想やその具体化手法について、産学官民が共働して取り組む教育研究活動を行っています



KOJIMA Keisuke

小嶋 啓介 [教授]

環境構造工学分野
・地形や地下構造と地盤被害には密接な関係があります。地表面から地下構造を探索し、自然災害の被害低減に役立てる研究をしています



NOJIMA Shinji

野嶋 慎二 [教授]

都市建築設計分野
・気持ちの良い場所づくりをテーマに建築や街路やコミュニティスペースなどのアーバンデザインの実施や持続可能なまちづくりの研究をしています



INOUE Keiichi

井上 圭一 [准教授]

環境構造工学分野
・建物の地震応答性状に関する解析的研究、建物の地盤応答低減を目指した構造システムの開発



KIKUCHI Yoshinobu

菊地 吉信 [准教授]

都市建築設計分野
・ハウジング、住環境地計画
・住みよい住環境を実現するための手法についての研究と実践的活動を行っています



SUZUKI Keigo

鈴木 啓悟 [准教授]

環境構造工学分野
・構造物の安全性を判断するためのモニタリング技術の研究や、超音波探傷手法による目視困難な部位の可視化に取り組んでいます



HARADA Yoko

原田 陽子 [准教授]

都市建築設計分野
・持続可能な市民参加の都市再生や地域資源を活かしたまちづくり・環境デザインについて、研究・活動を行っています



FUJIMOTO Akihiko

藤本 明宏 [准教授]

環境構造工学分野
・専門は地盤工学ですが、雪や土壌の熱・水分移動を得意とします。積雪地における斜面や盛土の安定問題や道路の雪水問題について研究をしています



MOMOI Yoshitsa

桃井 良尚 [准教授]

都市建築設計分野
・低環境負荷で、健康かつ快適な居住環境を実現するための研究を行っています。特に、気流利用空調、除湿空調、高効率換気空調、自然換気をテーマとしています



TERASAKI Hiroaki

寺崎 寛章 [講師]

環境構造工学分野
・専門は環境水理学、水文学です。研究は多岐にわたり、津波後の土壌塩害調査やバンクラデシュの飲み水支援など、国内外を問わずフィールドワークを得意としています



NISHIMOTO Masato

西本 雅人 [講師]

都市建築設計分野
・保育園、幼稚園、小中学校、図書館など、子どもが使う施設を対象に子どもたちの活動がより活発になるために、空間の使いこなし方について研究しています。また、それらの施設の延築設計にも取り組んでいます



HONMA Ayato

本間 礼人 [講師]

環境構造工学分野
・コンクリート工事の施工改善、腐材のリサイクル研究等を行っています



YAMADA Takaharu

山田 岳晴 [講師]

都市建築設計分野
・建築のデザイン・復元・設計を研究。専門は日本建築史・文化財学です。時代は堅穴住居から近代建築まで、神社・寺院・城・茶室・民家など、世界に誇る日本建築が対象です



ASANO Shuhei

浅野 周平 [助教]

都市建築設計分野
・持続可能な都市構造の実現に向け、都市計画・交通計画の視点からコンパクトシティや次世代交通、交通関連ビッグデータに関する研究をしています。



BAI Mingting

裴 敏廷 [助教]

都市建築設計分野
・障害児者・医療依存度の高い人に配慮した施設計画、高齢者の介護・療養支援環境計画、公共施設を対象としたバリアフリー・ユニバーサルデザインについて研究しています。

安全社会基盤工学専攻 原子力安全工学コース

本コースは、原子力発電及びその立地地域における安全性の確保、共生社会システムの構築、電力ネットワークの安定および放射線に関する基礎研究と利用に関連した技術移転による地域産業の活性化や、原子力防災などの諸課題に関する実践的かつ多面的な教育・研究を行います。



ARITA Yuji

有田 裕二〔教授〕

- ・高速炉燃料サイクルに関わる燃料・材料の研究
- ・日本の原子力基盤の一端を担ってみませんか



IZUMI Yoshinobu

泉 佳伸〔教授〕

- ・放射線の生体影響、新規な放射線等の測定手法の開発、放射線生物学、放射線化学全般
- ・やりがいのある研究、放射線に対する正しい知識と確かなスキルで社会に貢献しよう！



UNO Masayoshi

宇埜 正美〔教授〕

- ・二酸化ウランペレットとジルコニウム合金からなる原子炉燃料について、通常運転時の物性変化から事故時の熔融挙動までを模擬実験を中心に調べ、より安全な原子力システムの確立と福島第一原子力発電所の廃炉に貢献します



KUWAZURU Osamu

桑水流 理〔教授〕

- ・構造物の破壊や腐食など複雑現象の高精度シミュレーション技術・設計技術の開発
- ・志は高く、自分に厳しく、人に優しく、継続は力なり



FUKUMOTO Kenichi

福元 謙一〔教授〕

- ・照射効果研究からの原子力材料開発、原子力構造材料の安全性評価
- ・これからの原子力の安全について福井から技術研究の発信を行っています



YASUDA Nakahiro

安田 仲宏〔教授〕

- ・国内外の研究機関や企業との連携による新しい放射線計測技術開発
- ・低線量被ばくの人体影響が研究室で評価できる「細胞解析工場」確立など



OHORI Michihito

大堀 道広〔准教授〕

- ・原子力施設とその周辺地域の安全性向上を念頭に、地震や津波の研究・教育を行っています。



NAKAJIMA Kyohiei

中島 恭平〔准教授〕

- ・素粒子であるニュートリノの性質を調べる二重ベータ崩壊探索や、原子炉近距離におけるニュートリノ観測研究に取り組んでいます



WILLEM Van Rooijen

ファン ローイエン ウィレム〔准教授〕

- ・原子炉物理学（原子炉における中性子と物質の挙動）



MATSUO Youchiro

松尾 陽一郎〔准教授〕

- ・放射線生物学や放射線防護の研究をしています。低線量放射線による生体応答を解明し、その影響を細胞やDNAレベルで検出するための新手法を開発することを目指します



MATSUDA Naoki

松田 直樹〔准教授〕

- ・弾性波伝搬挙動の解析
- ・超音波を用いた構造物の非破壊評価法の開発



KAWASAKI Daisuke

川崎 大介〔講師〕

- ・原子力施設の廃止措置シナリオや放射性廃棄物処分場の安全性の評価手法に関して研究開発を行っています



ISHIGAKI Masahiro

石垣 将宏〔助教〕

- ・原子炉内熱流動挙動や流体挙動に関して数値解析と実験により研究を行っています

〔客員教授〕

岡 潔

OKA Kiyoshi

釜谷 昌幸

KAMAYA Masayuki

福谷 耕司

FUKUIYA Koji

藤井 克彦

FUJII Katsuhiko

月森 和之

TSUKIMORI Kazuyuki

〔特命教授〕

宮原 信哉

MIYAHARA Shinya

知識社会基礎工学専攻 知能システム科学コース

本コースは「生物・自然に学び、その成果を工学的に再構成し、知的で人に優しいシステムとして実現すること」を目的に教育研究を行うIMAGINEERの集団です。コンピュータやメカトロニクスを駆使するとともに、人間についても総合的な思考ができるIMAGINEER、すなわち、豊かな人間性を持った新しいタイプの技術者・研究者を育成し、地域・社会・産業界や豊かな人間社会の創出に貢献します。



OOAKA Tomohiro

小高 知宏〔教授〕

未来システム創造分野
・情報安全工学やネットワークセキュリティに関する研究、また、知的行動の工学的モデリングに関する研究を担当している



KUROIWA Jousuke

黒岩 丈介〔教授〕

知能創成分野
・カオスの基礎とその応用について研究し、人のような柔軟で卓越した情報処理のメカニズムの解明や実現を目指しています



TAKADA Hiroki

高田 宗樹〔教授〕

知能創成分野
・非線形非平衡系にみられる「私たち」に関心がある。特に、生体信号を扱い、「立体映像による眼疲労と酔いの原因の特定」などに興味がある



TAKAHASHI Yasutake

高橋 奏岳〔教授〕

未来システム創造分野
・ヒューマン・ロボット・インタラクション、ロボット学習、パワーアシスト・システム、テザー系飛行ロボット



NANAWA Tomohide

浪花 智英〔教授〕

未来システム創造分野
・学習制御・Model-Based 適応制御、ロボットハンドの協調制御、RT、OS を用いた制御系実装



HIRATA Takayuki

平田 隆幸〔教授〕

知能創成分野
・非線形物理学、カオス制御、複雑系科学、形の科学の研究
・知の探求という大海原へ漕ぎ出そう



FUJIGAKI Motoharu

藤垣 元治〔教授〕

未来システム創造分野
・光と画像を用いた3次元センシング
・世界初の手法で高速・高精度・高安定性を実現
・宇宙で使える3次元光計測システムの研究



ASAI Tatsuya

浅井 竜哉〔准教授〕

知能創成分野
・放射性薬剤を用いた生体代謝機構の解析、ポジトロンCTによる生体情報の画像化



OGOSHI Yasuhiro

小越 康宏〔准教授〕

未来システム創造分野
・人間がもつ、たくさんの優れた能力。その謎にせまるため、表情の認識や表情の表出について、模倣学習時の脳波特性について研究しています



KATAYAMA Masazumi

片山 正純〔准教授〕

知能創成分野
・人の認知と運動に関する脳内情報処理メカニズムに関する研究、人の身体意識と身体モデルに関する研究、深層学習に基づいた人工知能に関する研究



SHOUJI Eichi

庄司 英一〔准教授〕

未来システム創造分野
・次世代の夢を拓く「人工筋肉」の開発。妥協なしの自前の横断的な知識と技術の追求により、世の中に役立つ、夢の具体化に挑戦しています。詳細は研究室ホームページの動画を！



TANAKA Kanji

田中 完爾〔准教授〕

未来システム創造分野
・ロボット、計算機視覚
・「迷子にならないロボット」を目指して、視覚移動ロボットの研究開発を行っています



NAGAMINE Kouki

長宗 高樹〔准教授〕

未来システム創造分野
・私の研究室では、手術や診断を支援する装置やシステムの開発を行っています。未来の医療がよりよいものになる事を夢見て頑張っています



TANAI Yoshiaki

谷合 由章〔講師〕

未来システム創造分野
・ヒトやロボットの最適運動制御



TSUCHIHARA Satoshi

築地原 里樹〔助教〕

人間情報学分野
・人間の行動規範に基づくヒューマノイドロボットの高速な動作生成や行動計画や、ICT技術を用いた農地診断を研究しています。

〔客員教授〕

知能創成分野

長谷川 良平

HASEGAWA Ryohei

〔客員准教授〕

知能創成分野

前田 嘉一

MAEDA Yoshikazu

知識社会基礎工学専攻 情報工学コース

本コースは、情報、通信、メディア工学の最新の専門知識を体系的に理解し、国内外における自由競争の環境下で、問題を自ら発掘・提起し、独創的なアイデアをもって、解決を図ることのできる人材の育成を目標にしています。さらに大学院修了後も研究や学究の分野で、リーダーシップを発揮できるような高度の専門人材を、教員が一丸となって育成します。



TACHIBANA Takuji

橋 拓至 [教授]

情報・メディア工学分野
 ・全く新しい「新生代」の通信ネットワーク技術について研究します。安全・安心、SNS、有無線仮想化、データセンター、等がキーワードです



TOKAI Shogo

東海 彰吾 [教授]

情報・メディア工学分野
 ・複数のビデオカメラによる多視点撮影映像群を用いた動的な3次元状況の理解と映像化



HIGUCHI Ken

樋口 健 [教授]

情報・メディア工学分野
 ・早くて安いをモットーに、たくさんのデータを効率



FUJIMOTO Hiroshi

藤元 美俊 [教授]

情報・メディア工学分野
 ・無線LAN、地上デジ、携帯電話など、電波による通信を快適にするための研究
 ・好きこそものの上手なれ。好きなことを職業にしましょう



MORI Shin-ichiro

森 眞一郎 [教授]

情報・メディア工学分野
 ・スーパーコンピュータ、実時間シミュレーション、可視化、並列処理、組込みシステム
 ・高性能なコンピュータを創る醍醐味を一緒に体験しましょう



YAMAKAMI Tomoyuki

山上 智幸 [教授]

情報・メディア工学分野
 ・計算量理論、量子計算、暗号、ゲーム理論、論理学、離散数学
 ・才能に溢れた有望な若い学生を広く募集しています



YAMADA Norifumi

山田 徳史 [教授]

情報・メディア工学分野
 ・マイクロな世界では、壁にぶつかったボールが壁をすり抜ける、という奇妙な現象が起こります。この「トンネル現象」の可視化などに取り組んでいます



YOSHIDA Toshiyuki

吉田 俊之 [教授]

情報・メディア工学分野
 ・画像処理・信号処理、特に画像符号化、画像解析、3次元画像計測



IWATA Ken-ichi

岩田 賢一 [准教授]

情報・メディア工学分野
 ・情報通信システムにおける情報源符号、通信路符号、多端子情報理論における理論的限界を求めるとともにそれを実現する符号化・復号法



KAWAKAMI Tomoya

川上 朋也 [准教授]

情報・メディア工学分野
 ・多数の機器を扱う分散環境を想定し、モバイルコや分散やコンピューティング、ユビキタスサービス、高度交通システム(ITS)などを研究しています。



HASEGAWA Tatsuhito

長谷川 達人 [准教授]

情報・メディア工学分野
 ・スマートフォンやウェアラブルデバイスの実生活への応用に関する研究をしています。その過程で、多種のセンサや機械学習等の技術を取り扱っています



FUKUMA Shinji

福間 慎治 [准教授]

情報・メディア工学分野
 ・デジタル信号処理、画像・信号処理技術の産業応用(鏡検査装置、脳神経外科手術支援モニタリングシステム、遠隔講義支援システムの開発)



MORI Mikio

森 幹男 [准教授]

情報・メディア工学分野
 ・音声・聴覚・音楽情報処理(骨導音の音質改善・補聴器への応用、口笛の発音原理の解明・演奏評価など)



WATASHIRA Yasuhiro

渡場 康弘 [准教授]

情報・メディア工学分野
 ・高性能計算環境、広域分散環境、クラウドなどにおける資源提供サービスを支える管理・制御技術に関する研究を行っています。



ZHANG Chao

張 潮 [講師]

情報・メディア工学分野
 ・本研究室では、カメラからの画像情報を基に、人工知能や進化計算を用いたコンピュータビジョン、パターン認識に関する研究を行っています



HIROTA Yusuke

廣田 悠輔 [助教]

情報・メディア工学分野
 ・シミュレーションやデータ解析においては固有値計算手法をはじめとする基礎的な数値計算手法が重要な役割を果たします。私は各種数値計算法の高速化・高精度化技術について研究しています

知識社会基礎工学専攻 数理科学コース

先端科学技術の基礎には物理学があり、その物理学は数学なしで記述することができません。新技術の創出には、その分野の基礎にある数理的な論理をしっかりと理解し、応用できることが大きな強みとなります。本コースでは、数学、理論物理学、コンピュータシミュレーションを専門とする教員が在籍し、科学技術の発展のために期待される数理的思考に長けた人材の育成に努めます。



KOGA Yoshiyuki

古閑 義之〔教授〕

数理・量子科学分野
 ・専門は数学で超リー代数という代数系が研究テーマです。超リー代数は物理とも関連する興味深い研究対象ですが、多くの問題が未解決です



TAKAGI Takeo

高木 丈夫〔教授〕

数理・量子科学分野
 ・低温物理学（絶対温度 1K 以下で起こる現象）の研究をしています
 ・学問的な好奇心が原動力です。それを失くさないでください



TAMAI Yoshinori

玉井 良則〔教授〕

分子科学分野
 ・専門は、高分子物理学および計算科学。計算機シミュレーションにより高分子材料設計や生体機能の解析を進めています



TAJIMA Naoki

田嶋 直樹〔教授〕

数理・量子科学分野
 ・核子の有限量子多体系として見た原子核の理論的研究、主として平均場模型に基づく研究
 ・人の説明を鵜呑みにせず、必ず自分なりに考えたいものです



HASHIMOTO Takaaki

橋本 貴明〔教授〕

数理・量子科学分野
 ・物質の最小単位である素粒子に関連した研究をしています。確率的量子場の理論、量子力学の幾何学的側面



KOISHI Takahiro

古石 貴裕〔准教授〕

分子科学分野
 ・コンピュータで原子や分子の動きを再現し、液体、高分子、タンパク質などの性質をナノスケールで調べています



SATOH Yuji

佐藤 勇二〔准教授〕

数理・量子科学分野
 ・自然界の基本構成要素である素粒子についての離散的な研究をおこなっています。特に、重力の量子論の構築を目指した弦理論および関連する分野の研究を進めています。



MATSUMOTO Takuya

松本 拓也〔准教授〕

数理・量子科学分野
 ・2次元共形場理論をはじめとする物理的な模型の数学的構造を研究しています。
 ・伝統的な数学分野である代数、幾何、解析を縦糸とすれば、そこに物理という横糸を通すのが数理物理学です。

知識社会基礎工学専攻 電子物性コース

本コースは、電子・半導体物性と光物性分野の基礎知識の探求を通して、新しい電子材料、半導体材料、電子デバイス、光デバイスの開発に関する研究を行っています。主に電子材料、半導体表面界面、電気エネルギー、量子エレクトロニクス、光エレクトロニクスの研究分野から構成されています。



KANABE Tadashi

金邊 忠〔教授〕

電子物性分野
 ・高出力・超高強度レーザー開発やレーザーエネルギー利用、宇宙太陽光発電用の高効率・高出力レーザーの設計・開発、核融合用レーザーの設計開発



SHIOJIMA Kenji

塩島 謙次〔教授〕

電子物性分野
 ・半導体物性、電極界面の評価、新機能半導体デバイスの作製
 ・半導体の謎解きにチャレンジしてみませんか



YAMAMOTO Kohji

山本 晃司〔教授〕

電子物性分野
 ・携帯電話で使っている電波の1000倍の周波数の電波を使った研究を行っています
 ・これからの高周波数化へ向かう社会の先端を目指す



KAWATO Sakae

川戸 栄〔准教授〕

電子物性分野
 ・レーザーを作って、いろいろな分野へ応用する研究をしています
 ・やりたいことを見つけるため、いろいろな経験をしましょう



MAKINO Takayuki

牧野 哲征〔准教授〕

エネルギー工学分野
 ・新エネルギー科学に関する分光学的研究を行っています。環境調和性を留意しつつ、エネルギー問題解決に資する新材料や新光評価法を開発している



HIRAYASHI Hiroki

今林 弘毅〔助教〕

電子物性分野
 ・次世代半導体材料の物性評価、電極界面の評価
 ・新しい半導体材料とはどんなものか、一緒に追求してみよう

知識社会基礎工学専攻 電磁工学コース

物性・電磁物理分野(物性物理学、放射線・粒子線物理学、素粒子物理学)、分子科学分野(物理学と化学を横断する境界領域である物理化学)の2分野と、世界最高水準の遠赤外高出力光源「ジャイロトロン」を有する遠赤外領域開発研究センターの教員が、協力しながら教育・研究を担当します。

社会の基盤技術の維持・発展を行うための電磁工学の知識・技術を学んでいきます。



OGAWA Izumi

小川 泉 [教授]

物性・電磁物理分野
 ・放射線測定を用いた宇宙・素粒子・原子核研究
 ・二重ベータ崩壊・ダークマター探索など放射線を利用して宇宙の謎を探りましょう！



KIKUCHI Hikomitsu

菊池 彦光 [教授]

物性・電磁物理分野
 ・低次元反強磁性体における量子効果、スピンフラストレート磁性体の磁性



KUMAKURA Mitsuoka

熊倉 光孝 [教授]

物性・電磁物理分野
 ・レーザー冷却を始めとする原子・ナノ粒子の運動状態および内部状態の光マニピレーション



TATEMATSU Yoshihori

立松 芳典 [教授]

物性・電磁物理分野
 ・高出力サブミリ波ジャイロトロン及び伝送システムの開発



TANI Masahiko

谷 正彦 [教授]

物性・電磁物理分野
 ・テラヘルツ電磁波の発生と検出法の開発、テラヘルツ時間領域分光法、テラヘルツ電磁波の各種計測応用、テラヘルツ帯コヒレントアンチストークスマン分光



MITSDO Seitaro

光藤 誠太郎 [教授]

物性・電磁物理分野
 ・遠赤外光源ジャイロトロンの開発とその物性研究への応用



ASANO Takayuki

浅野 貴行 [准教授]

物性・電磁物理分野
 ・量子スピン系及び幾何学的競合系の磁気的性質や新規機能性材料の探索合成



SISON Esakano Mary Clare

エスカノ メアリー クレア スイゾン [准教授]

物性・電磁物理分野
 ・第一原理計算法による時期システムの構造、磁気相転移、輸送特性を研究しています



NISHIUMI Toyohiko

西海 豊彦 [准教授]

分子科学分野
 ・1段階多電子移動有機分子の合成と電気化学測定
 ・一度に電子を沢山動かして、高速応答の2次電池や、太陽電池を作ります



FUJII Yuraka

藤井 裕 [准教授]

物性・電磁物理分野
 ・極低温・強磁場という極限環境下で現れる物質の磁気的性質を磁気共鳴測定等により研究しています
 ・研究を通してともに成長しましょう



MORIYASU Takeshi

守安 毅 [講師]

物性・電磁物理分野
 ・光と物質の相互作用」という言葉をテーマにレーザーやテラヘルツ光源を駆使して研究を行っています



ISHIKAWA Yuya

石川 裕也 [助教]

物性・電磁物理分野
 ・超低温・高磁場領域における磁気特性解明及び測定装置開発。
 ・高周波・高出力光源であるジャイロトロンを用いた磁気共鳴システムの開発及びその応用。
 ・大学院で共に学び成長しましょう！



FUKUNARI Masafumi

福成 雅史 [助教]

プラズマ工学
 ・ミリ波・サブミリ波帯の大電力光源の開発と、その応用としてミリ波放電、ピーミング推進、電力伝送の研究を行っています。



FURUYA Takashi

古屋 岳 [助教]

物性・電磁物理分野
 ・分子分光の研究をしています。また、その光源となるテラヘルツ波の発生や検出の研究をしています



YAMAGUCHI Yasuke

山口 裕資 [助教]

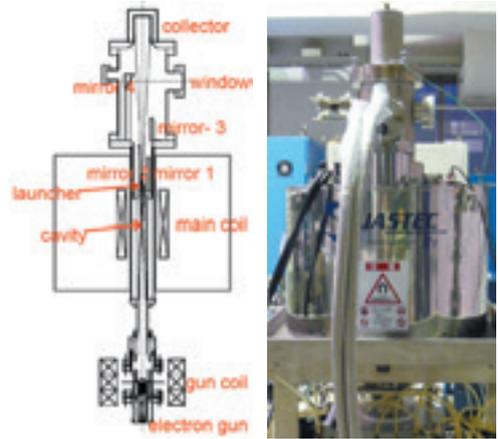
物性・電磁物理分野
 ・テラヘルツ帯で動作するジャイロトロンを用い、荷電粒子と電磁波の相互作用について研究しています。現在、特に高性能電子銃の開発に注力しています

工学研究科の教育と研究をサポート。

専門性の高い施設とセンターが高度な工学の研究、学習を応援します。

遠赤外領域開発研究センター

遠赤外領域開発研究センターは、電波と光の中間に位置する新しい電磁波領域「遠赤外光／テラヘルツ波」を総合的に開発研究しています。独自開発の高出力テラヘルツ波源「ジャイロトロン」をさらに高性能化し、物質科学・生命科学・素粒子物理学・新機能材料開発・エネルギー科学等の広範な領域で新しい研究に適用するとともに、新方式テラヘルツ波発生・分光法を開発しています。図は最近開発した高性能ジャイロトロン断面図と写真です。本センターは、国内外多数の研究機関と学術交流協定及び共同研究覚書を締結してグローバルな研究協力を展開し、遠赤外領域研究の世界的拠点としても注目されています。



附属国際原子力工学研究所

福井県嶺南地域の豊富な原子力関連施設を活用した原子力の基礎・基盤研究及び応用研究を進めるとともに、原子力の安全性向上、防災危機管理の向上に資する研究、地震・津波に強い原子力システムの開発、適切かつ迅速な放射線防護対策等の研究をはじめ、フランス、アメリカをはじめとする海外の研究機関との学術交流を通じた国際的な原子力安全基盤研究を進めています。また、フランス、アメリカをはじめ、インドネシア、ベトナム、モンゴル等のアジア諸国から留学生、研究者等を受け入れ、質の高い国際的な人材育成を行っています。

さらに、北陸・中京・関西圏の大学、研究機関との連携、福井県内の原子力関連施設を核とした研究拠点の形成を推進しています。



繊維・マテリアル研究センター

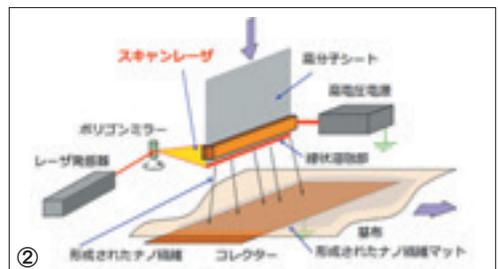
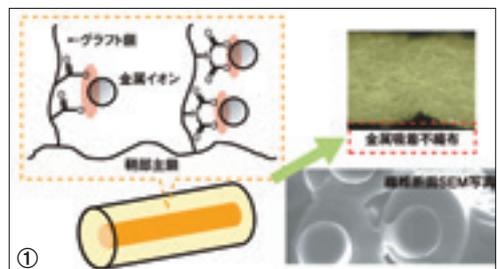
福井大学と地域の双方が強みを持つ研究分野である繊維・機能性材料工学分野の研究・開発を地域と協働で行う体制を強化するために、2019年4月に設立しました。日本の元気な繊維産地をもっと元気にすること、みなさんに役に立つセンターになること、さらに世界の繊維・マテリアル研究分野の発信基地になることを目指して、活動を展開しています。

研究例：①

福井大学が長年培ってきた電子線加工技術を基礎に、レアメタルなどの金属イオンを選択的に、吸着・回収できる不織布の開発に成功

研究例：②

線状レーザ溶融静電紡糸法の開発により、食品工業、メデイカルなどの分野で要求される高透水量の精密ろ過膜として、ナノファイバーマットの量産化に成功



産学官連携本部

産学官連携推進部門

学内外から要請される産学官連携活動を的確かつ迅速にコーディネートする組織です。産学官連携本部の内部・外部の窓口となる連携企画部、大学院生が関わることも多い共同研究の窓口となる共同研究推進部、学生や教育の独創的アイデアを発掘し、事業として育てたり、起業化に向けた教育研究をサポートする創業支援部の3つの部と、大学院生の研究でもお世話になることの多い分析や計測技術を支援する附属テクニカルイノベーション共創センター、研究成果の社会実装に向けた各種マネジメント支援を行う附属社会実装研究センターの2つのセンターで構成されています。

研究統括部門

研究者とともに、研究活動の企画・マネジメント、研究成果活用推進を行い、研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化を目的とした組織です。大学院生も加わる可能性のある政府資金研究プロジェクトの申請、契約から成果報告までのサポートなどを行う研究・企画管理部、研究を通じて得られた知的財産をしっかりとサポートする知的財産・技術移転部の2つの部で構成されています。



YAMAGUCHI Mitsuo

山口 光男〔講師〕

・経営学、なかでも知識経営、技術経営(MOT)の理論と実践の融合研究「価値づくり」のために、「ものづくり」をどう活用するか、考えていきましょう

地域創生推進本部

地域創生推進本部は産学官連携本部、産業化研究特区とともに、福井大学社会共創機構の一翼を担っています。当本部では地域の高等教育機関、地方公共団体、産業界及び金融機関等と連携し、地域で必要とされる人材の育成及び地域創生に資する社会共創を支援・推進しています。

令和4年4月には新たに附属嶺南地域共創センターと附属創生人材センターを設置し、嶺南エリアにおける地域課題解決や多職種連携教育・価値創造型PBLの実施に取り組んでいます。その他、公開講座をはじめとして「福井大学きてみてフェア」などの事業を通じて、広く地域のみならず



まへ福井大学の教育や研究を還元し、キャリアアップや生涯学習を支援しています。



OHKUBO Mitsugu

大久保 貢〔教授〕

・地域人材育成における高大接続として、高校における探究的な学びへの支援を通して高校で育む資質と大学が求める資質の橋渡しを行い、高大連携活動を推進しています。



TAKEMOTO Takuji

竹本 拓治〔教授〕

・企業や組織の成長にアントレプレナーシップ人材が不可欠です。ことづくり概念やシリアスゲームなど、従来とは異なる手法を応用できる柔軟な人材を目指しましょう。



TORAO Yoshinobu

虎尾 憲史〔教授〕

・留学生向けの日本語教育を専門とし、博士前期課程では「工業日本語特論Ⅰ・Ⅱ」という科目を担当しつつ、留学生支援業務にも従事しています。

総合情報基盤センター

教育や研究、大学運営に必要な情報処理環境を提供するとともに、学生や教職員などの構成員にとって不可欠な大学のネットワークの管理運営を行うセンターです。大規模な計算や大容量データ処理を行う科学技術計算、医療情報処理計算という役割だけでなく、学内ICT環境の向上に向けた指導・支援も行っています。また、近年問題となっている情報セキュリティ向上に対する指導・支援にも力を入れており、これらの活動を通じて、大学院における教育の向上と研究の推進をサポートしています。



OGAITO Takuo

大垣内 多徳〔准教授〕

情報ネットワーク分野
・情報システムや情報ネットワークについて、利便性、安全性、高可用性と低運用コストを両立させる手法について考えています。

国際センター・語学センター

国際センター及び語学センターは、英語教育の他、外国人留学生に対して日本語・日本文化・日本事情に関する教育を実施するとともに、外国人留学生に、修学上、生活上の指導助言を行っています。また、学生をグローバル人材として育成するために、語学力や異文化理解力などを培う海外研修プログラムの実施や、海外派遣支援金の支給等を行っています。本学には、26ヶ国・地域から131名(2022年5月1日時点)の外国人留学生が在学しており、日本人学生との交流、地域社会との交流を推進しています。帰国留学生が組織する福井大学留学生同窓会も14ヶ国・地域に17支部まで広がっており、今後も本学は、帰国留学生との強固なネットワークを築いていきます。



留学生との交歓会



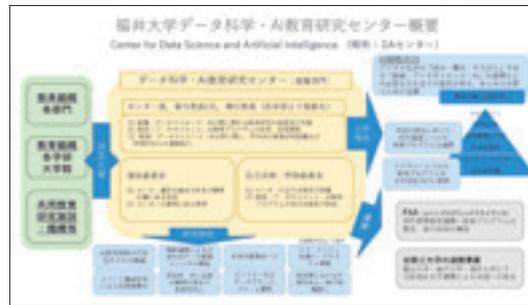
AKASHI Yukio

明石 行生〔教授〕

国際センター長・語学センター長
・国際センターでは、外国人留学生の受入と日本人学生の派遣、語学センターでは、共通教育の英語と留学生の日本語教育について、担当教員と国際課職員と共に支援しています。

データ科学・AI教育研究センター

本センターは福井大学における数理・データサイエンス・AI分野における教育研究活動のより一層の推進を目的として、2021年7月1日に開設されました。本センターの主な業務は次のとおりです。(1) 数理・データサイエンス・AI分野に関する教育研究の推進及び支援に関すること、(2) 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの制定、管理運営に関すること、(3) 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの自己点検及び評価に関すること、(4) 数理・データサイエンス・AI分野における学内外の教育研究組織及び地域社会との連携協力に関すること。



先端科学技術育成センター

当センターは、学部から大学院までの教育研究において、一貫して創造力と実践力の育成を支援するセンターです。大学院博士前期課程では、プロジェクト型学習(工学研究科共通科目：PBL I, II)、長期インターンシップ(工学研究科 共通科目)などの授業の他、機械工場での精密工作支援などを通じて、みなさんの能力向上をサポートします。



附属超低温物性実験施設

液体窒素や液体ヘリウムを用いた超低温領域での実験研究を行う施設で、研究に必要な液体窒素や液体ヘリウムの製造・供給及び使用後のヘリウムガスの回収も担います。



ライフサイエンスイノベーションセンター

学部の枠を越えて生命科学に関連する幅広い分野の教育と先端的生命科学を高水準で推進するとともに、医学や生命科学を理解し応用できる優れた技術者を育成します。



地域環境研究教育センター

地域に密着した環境問題を調査し、地域の環境を保全・改善するための研究を行っており、環境に対する一般の方々の理解を支援するための環境教育も重要視しています。



附属図書館



保健管理センター



語学センター



国際交流学生宿舎



IMAGINEER = Imagine + Engineer

心に描いてみよう。

技術が生み出すモノの向こうにある人々の暮らしを。

モノをつくることは生活をデザインすること。

心に描いてみよう。

将来の自分の姿を。

どんな姿を目指そうとしているのか？

今、そのために何をすべきなのか？

ここでの2年間で、自分を進化させるための

「志」を磨いてみよう。





福井大学大学院工学研究科
博士前期課程

〒910-8507 福井市文京3-9-1 TEL.0776-27-9927
<https://www.eng.u-fukui.ac.jp/>